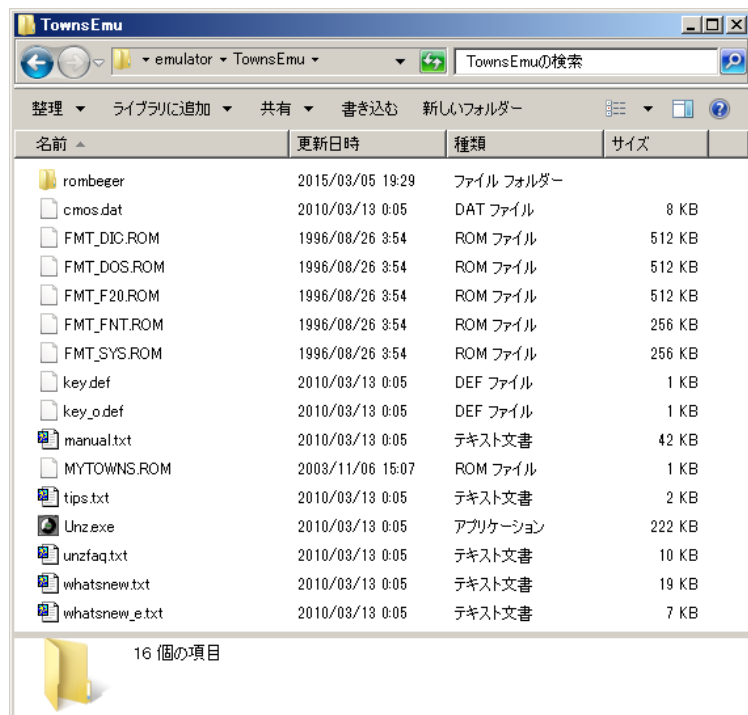


TOWNS エミュレータ うんづ

MML コンパイル環境を構築するまでの備忘録

公式サイトから最新版の「うんづ」をダウンロードし、適当なフォルダに展開。

そこに手持ちの TOWNS から吸い出した各種 ROM を配置する。



ROM の吸出しは、添付されている rombeger を実機で動作させればよい。

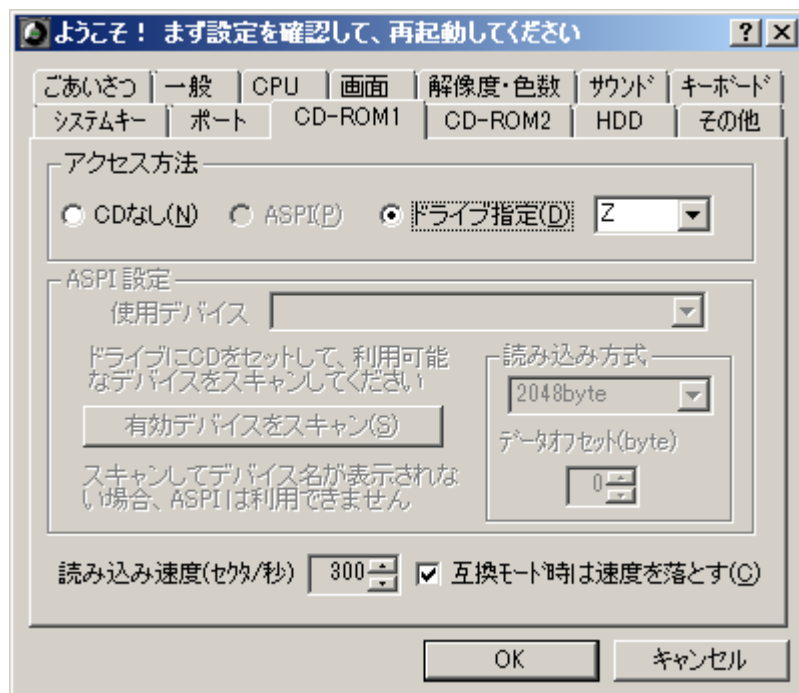
※吸出した ROM は合計 2MB 超えるので FD 1 枚の収納は 2 個が限界。バッチを編集するなり HDD から何回かにわけてコピーしてくるのが筋。

うんづを起動すると、まず初回起動画面が出る。



言われた通り、とりあえず CD-ROM ドライブの設定を行う。

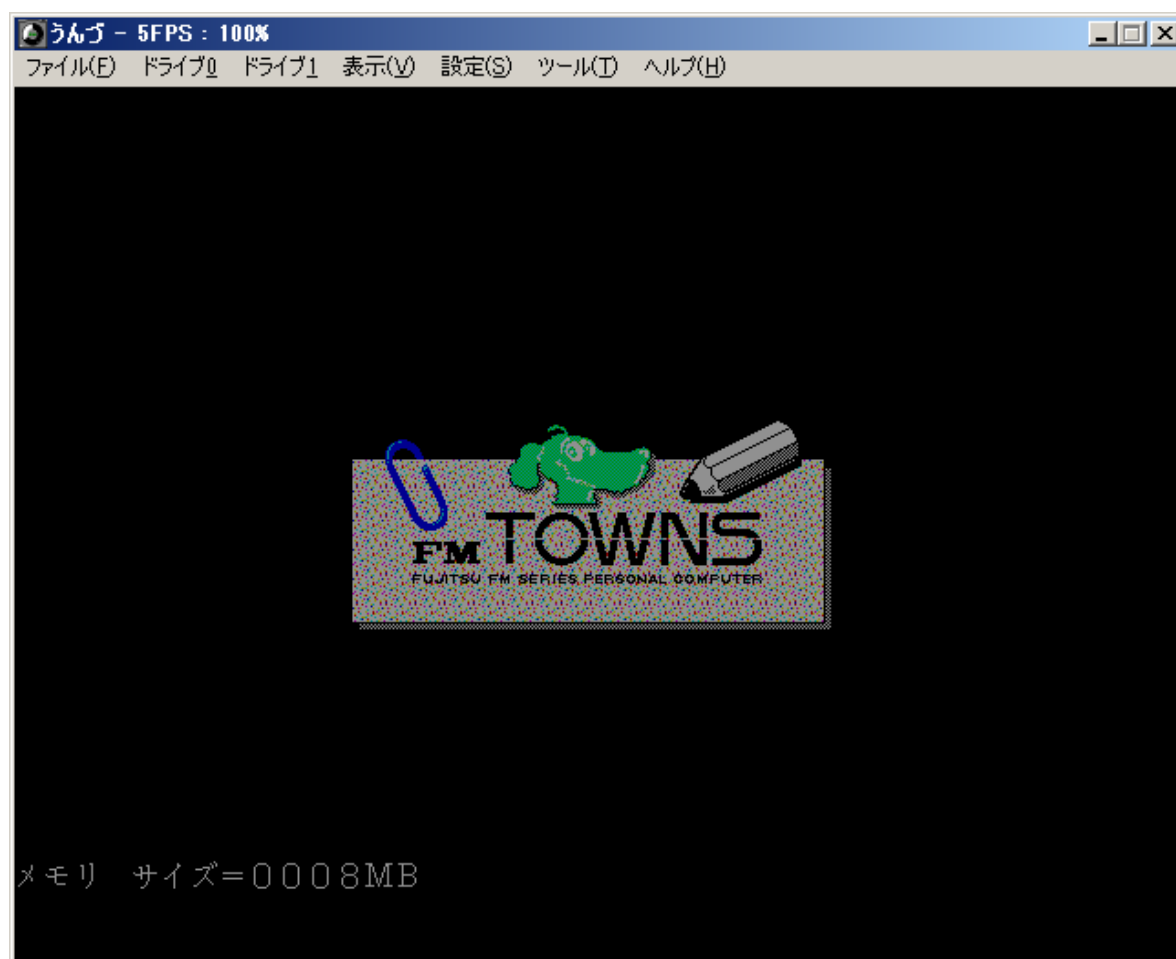
Windows の CD-ROM ドライブレターを割り当てるだけで、大抵うまく行くはず。



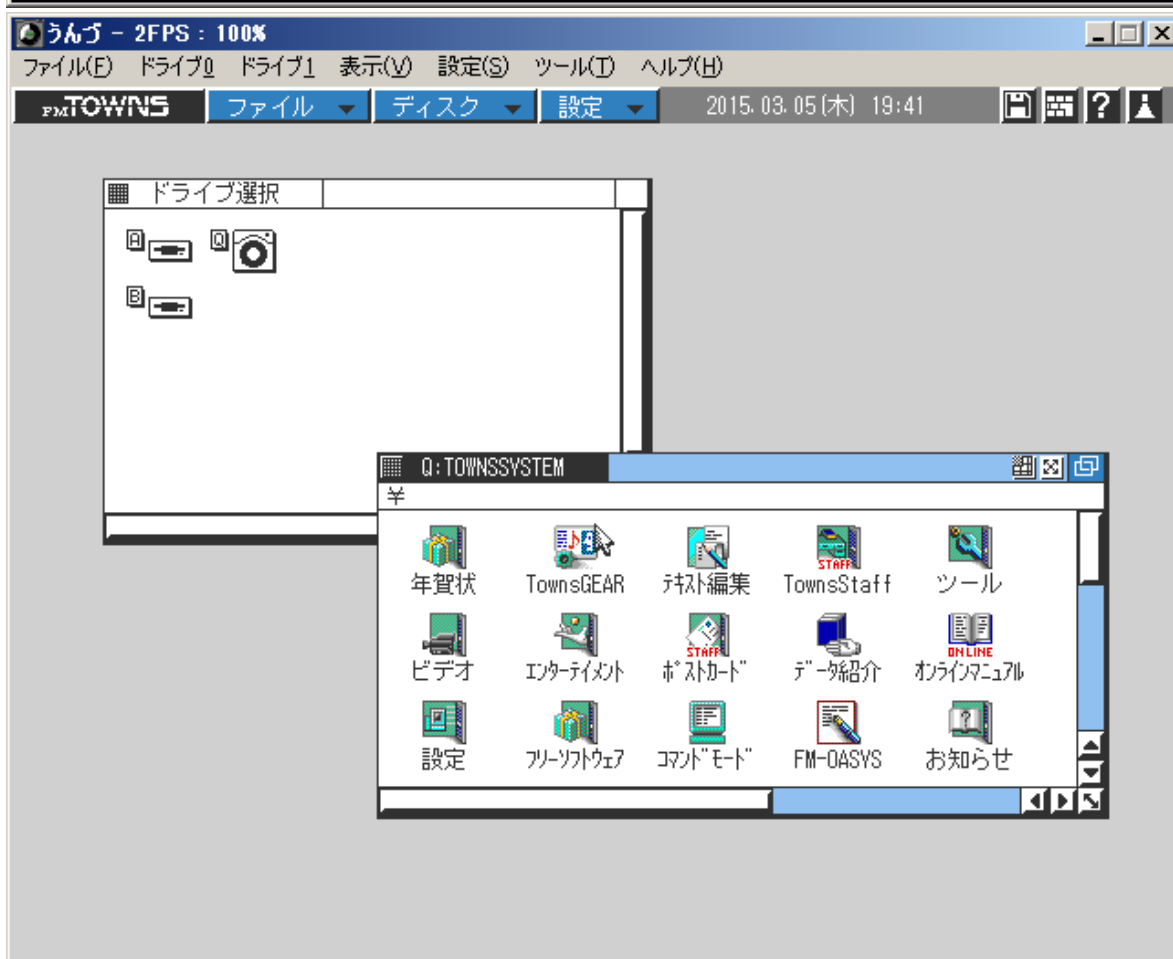
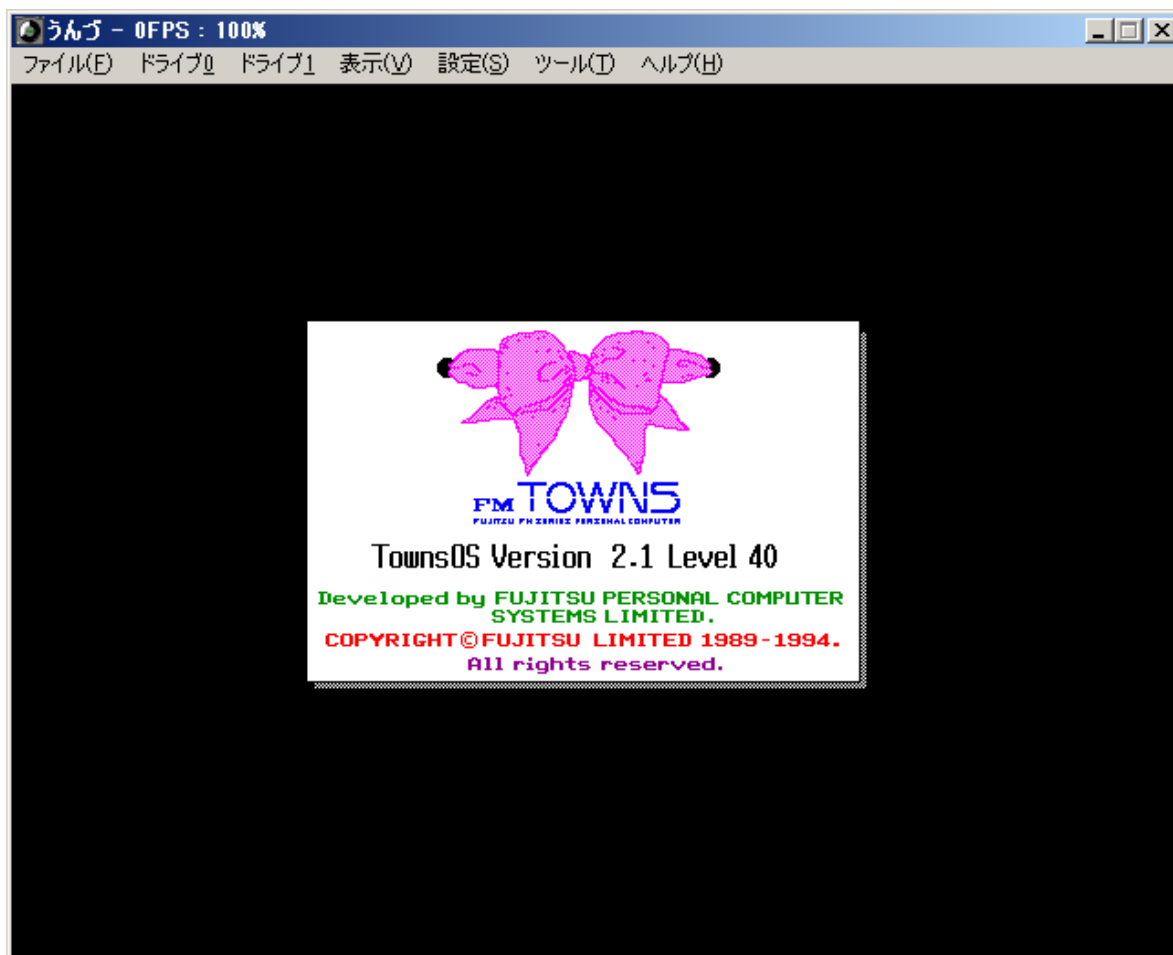
この設定は後でも変えられるので、適当に。

変更したら「O K」を押して設定を ini ファイルに反映する。（自動的に終了する）

割り当てた CD-ROM ドライブに TOWNS OS の CD をセットし、もういちど UNZ.EXE を起動する。

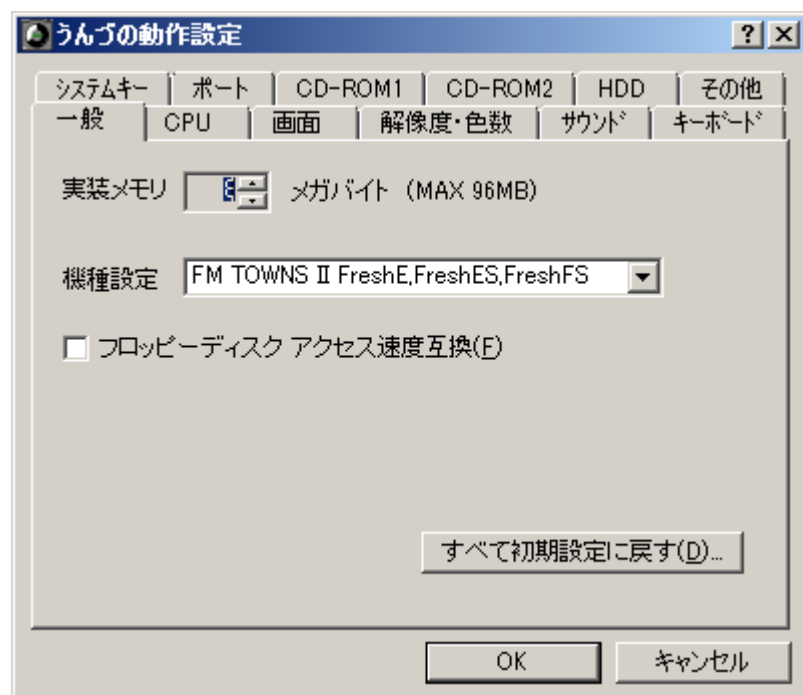


C Dドライブが有効になっていれば、読み込んで TOWNS OS が起動する。

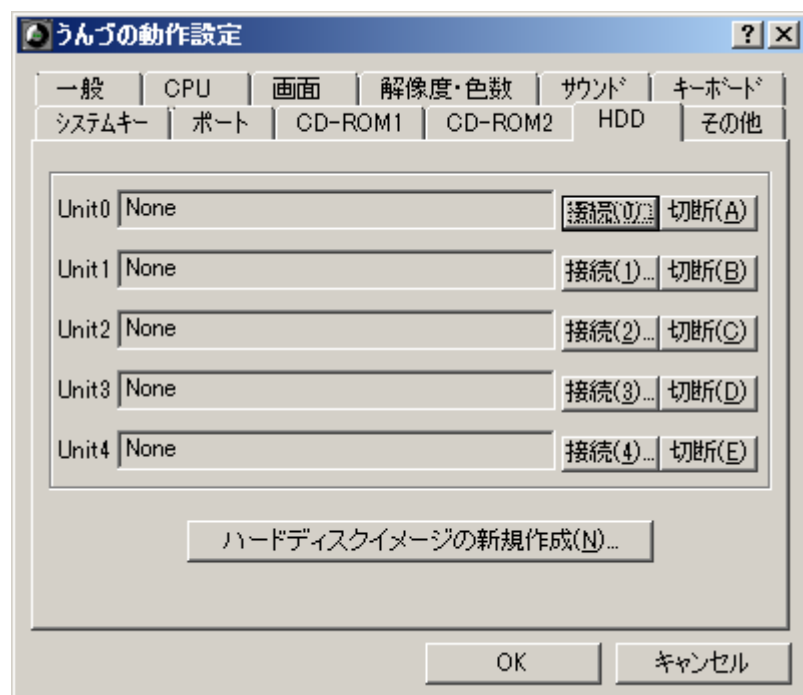


とりあえずハードディスク区画を作る。

「設定」→「プロパティ」でうんづの動作設定を呼出す。

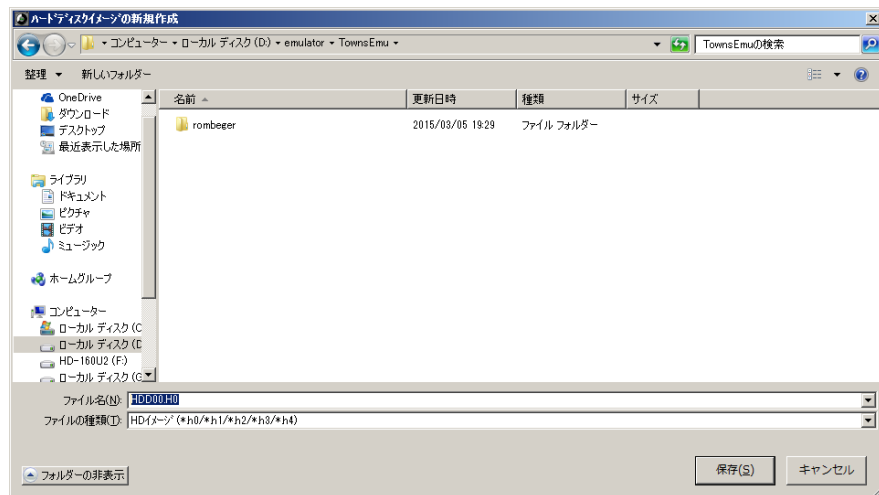


HDDタブに移動する



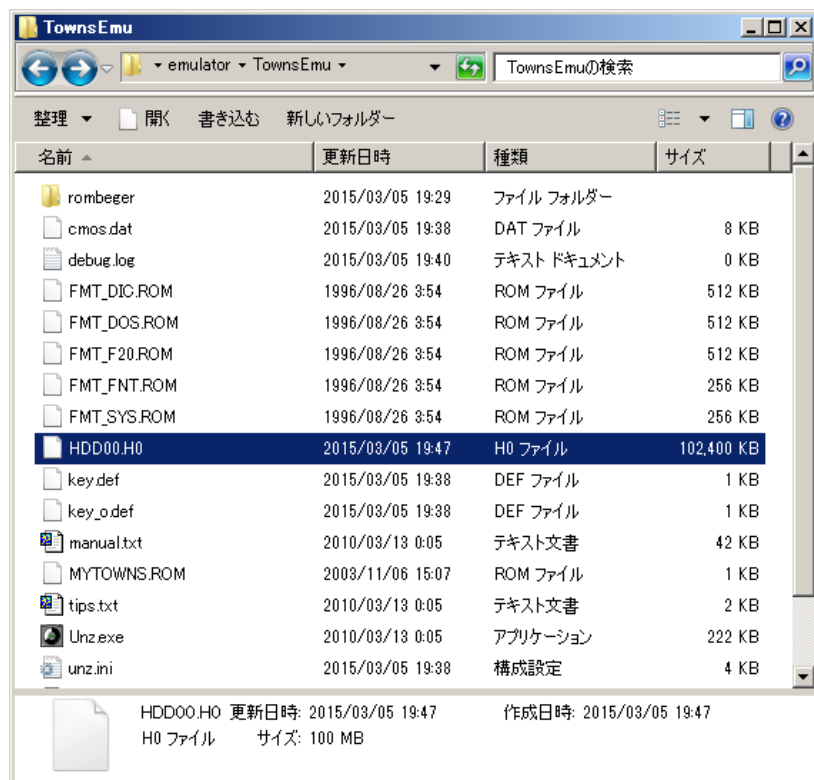
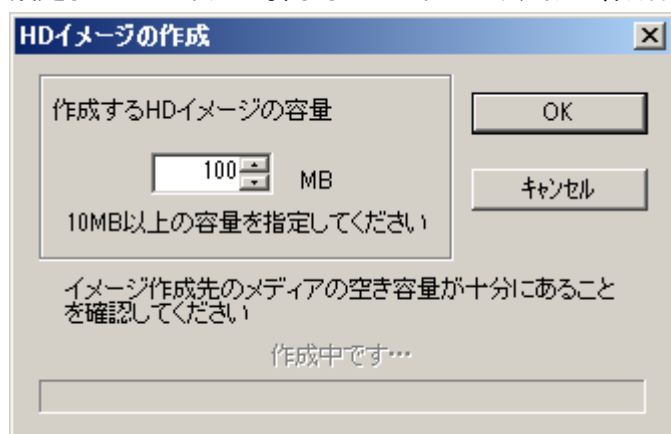
ハードディスクイメージの新規作成をクリックする。

新規作成画面が出るので、ハードディスクイメージファイルを置くフォルダに移動し、適当なファイル名を付けてイメージを生成する。

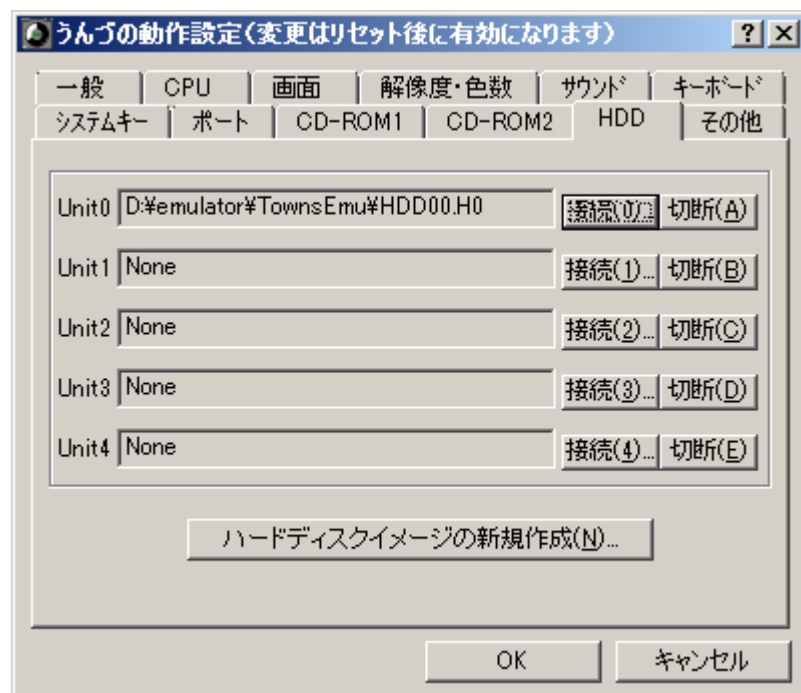


容量を聴いてくるので数値を入力する。(TOWNS OS のインストールはだいたい 20MB 必要)

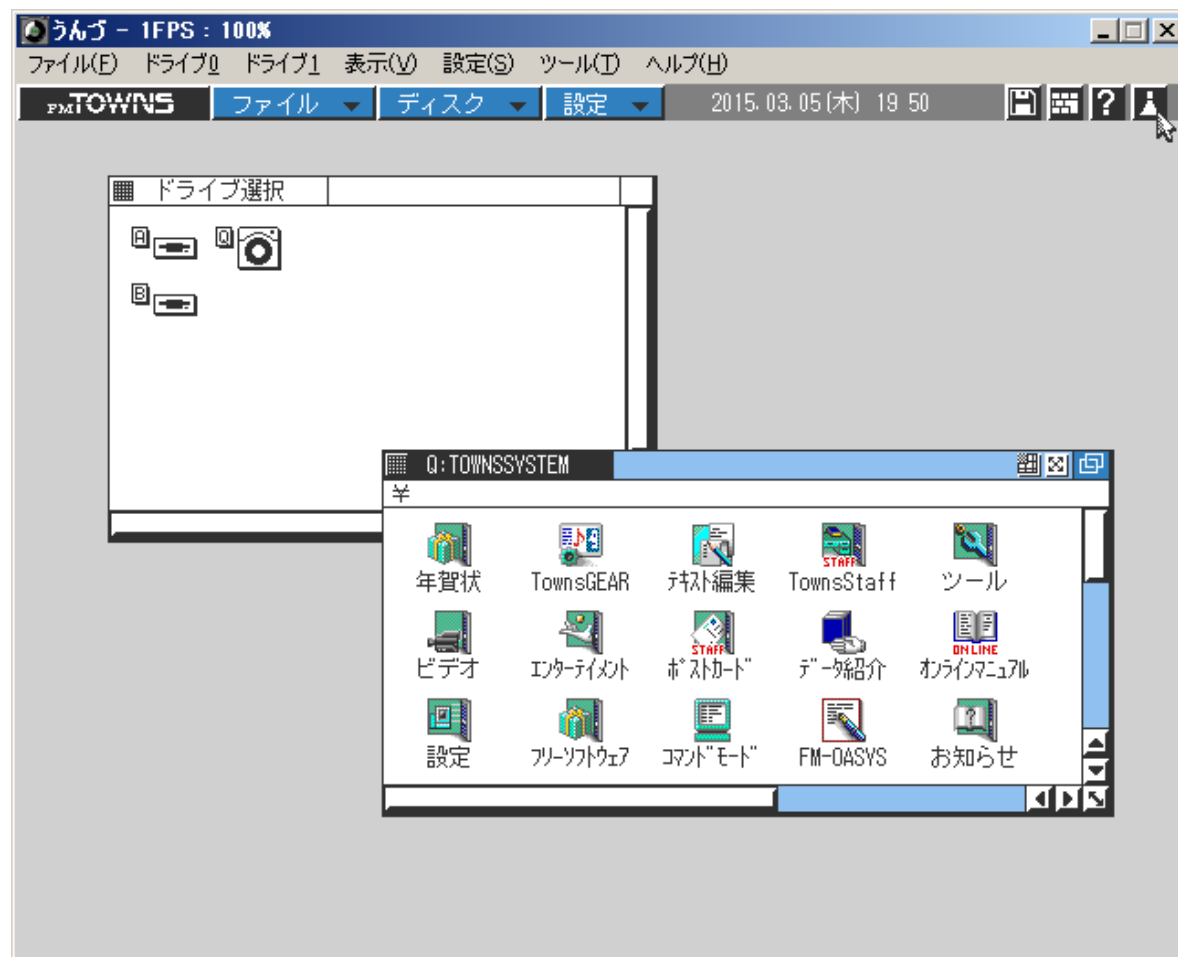
設定したら O K ボタンを押して HDD イメージファイルを作成する。



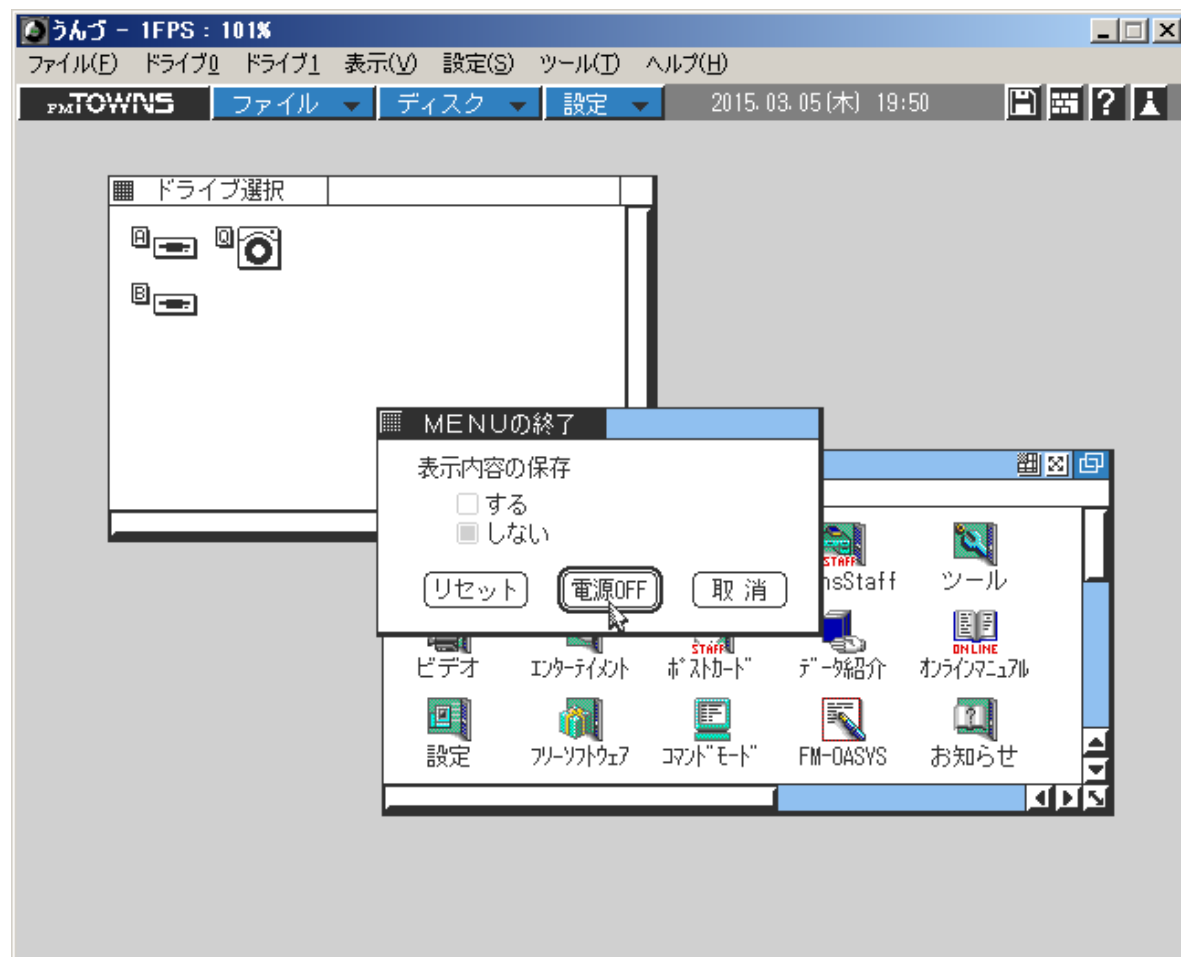
作成したイメージファイルを Unit に登録する。「接続」を押してイメージファイルを選択すれば O K



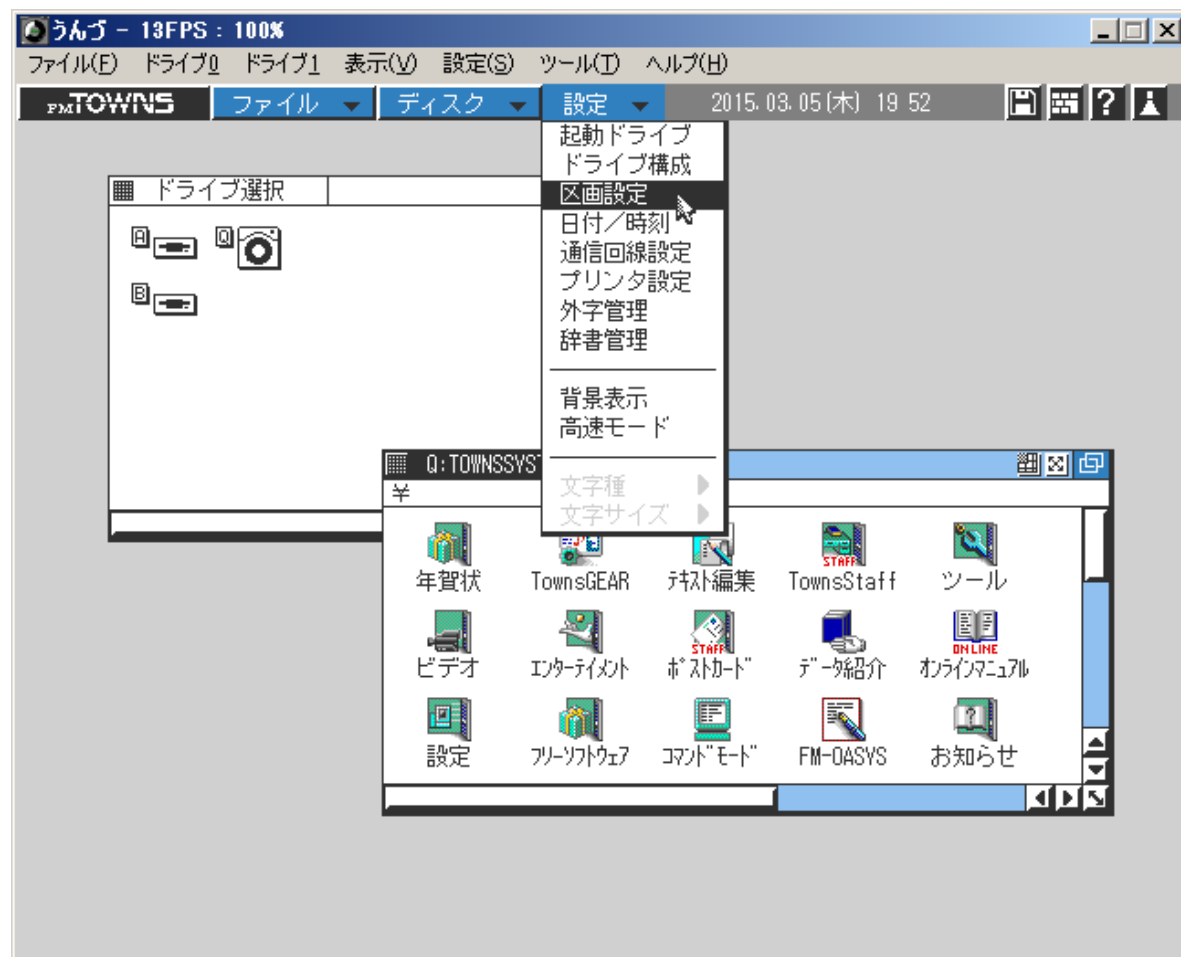
一旦 TOWNS OS をリセットする。(マウスホイールして右上のアイコンをクリック)



電源 OFF をクリック



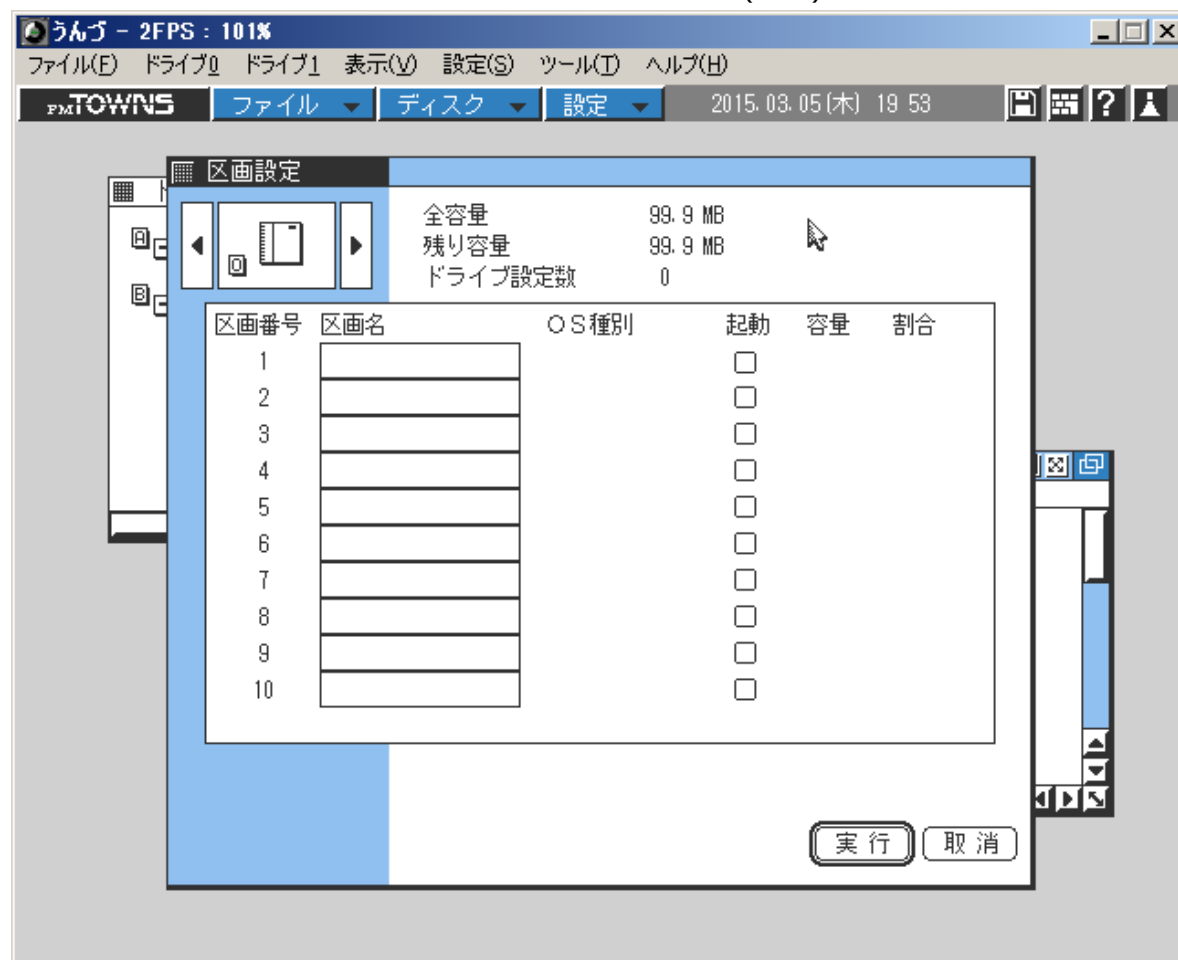
再びうんづを起動し、「設定」→「区画設定」を選択する





ユニット登録した HDD の番号を選択し、ハードディスクのアイコンを押す。

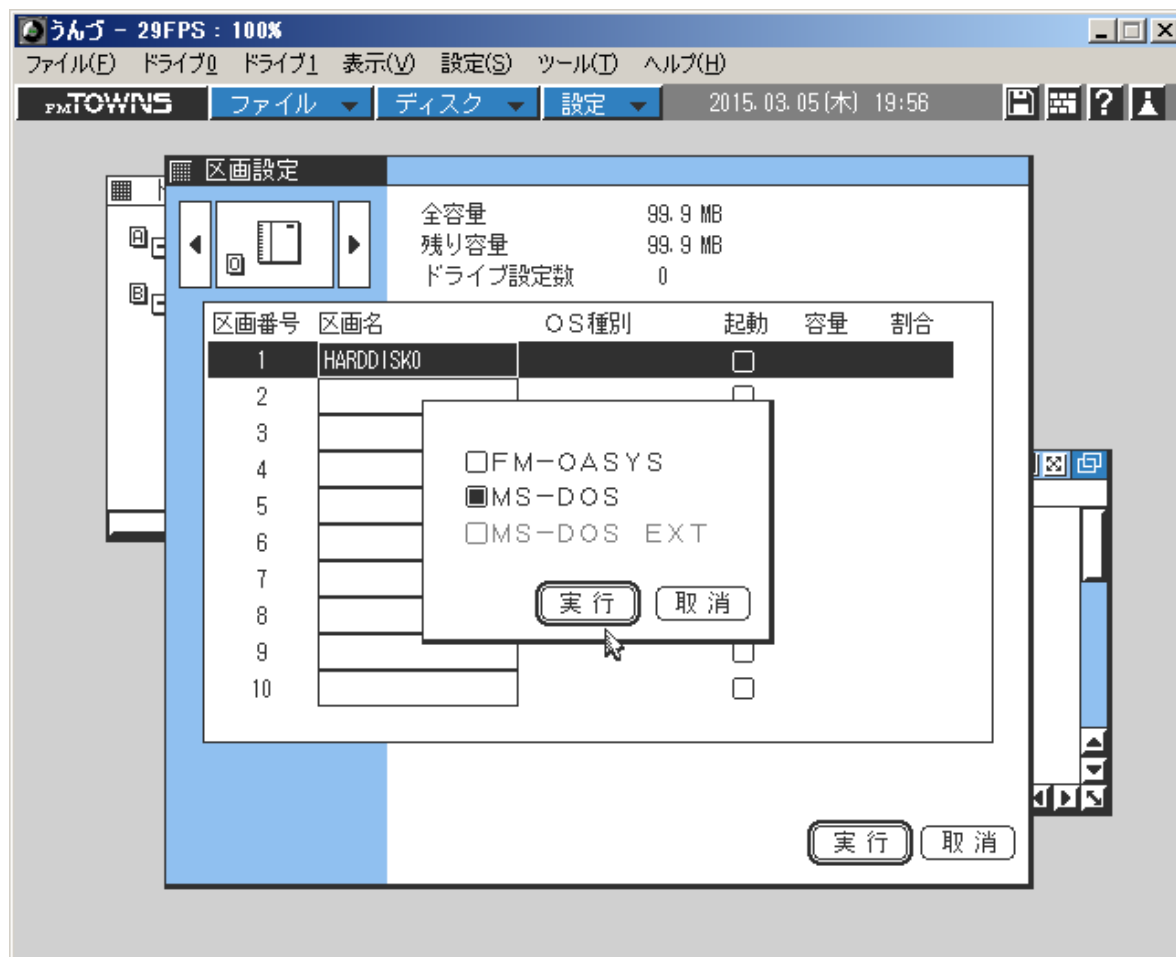
全容量の数値が変わるので、作成したイメージファイルの容量と同じ(くらい)であることを確認。



区画名の部分をクリックして HDD イメージの識別名前を登録する

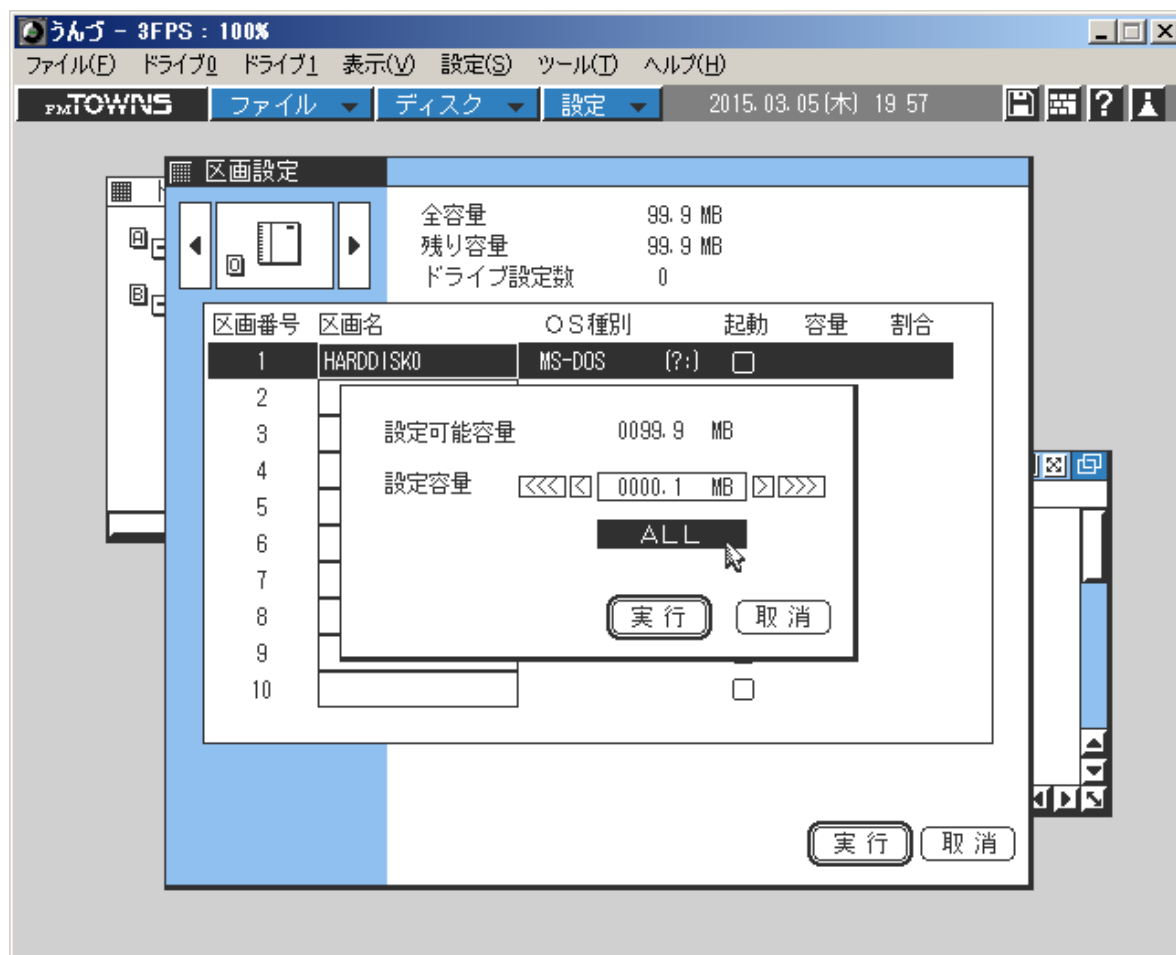


区画名を入ると、フォーマット種類を聞いてくるので、フォーマット種別を選択する。（基本 MS-DOS で良い）

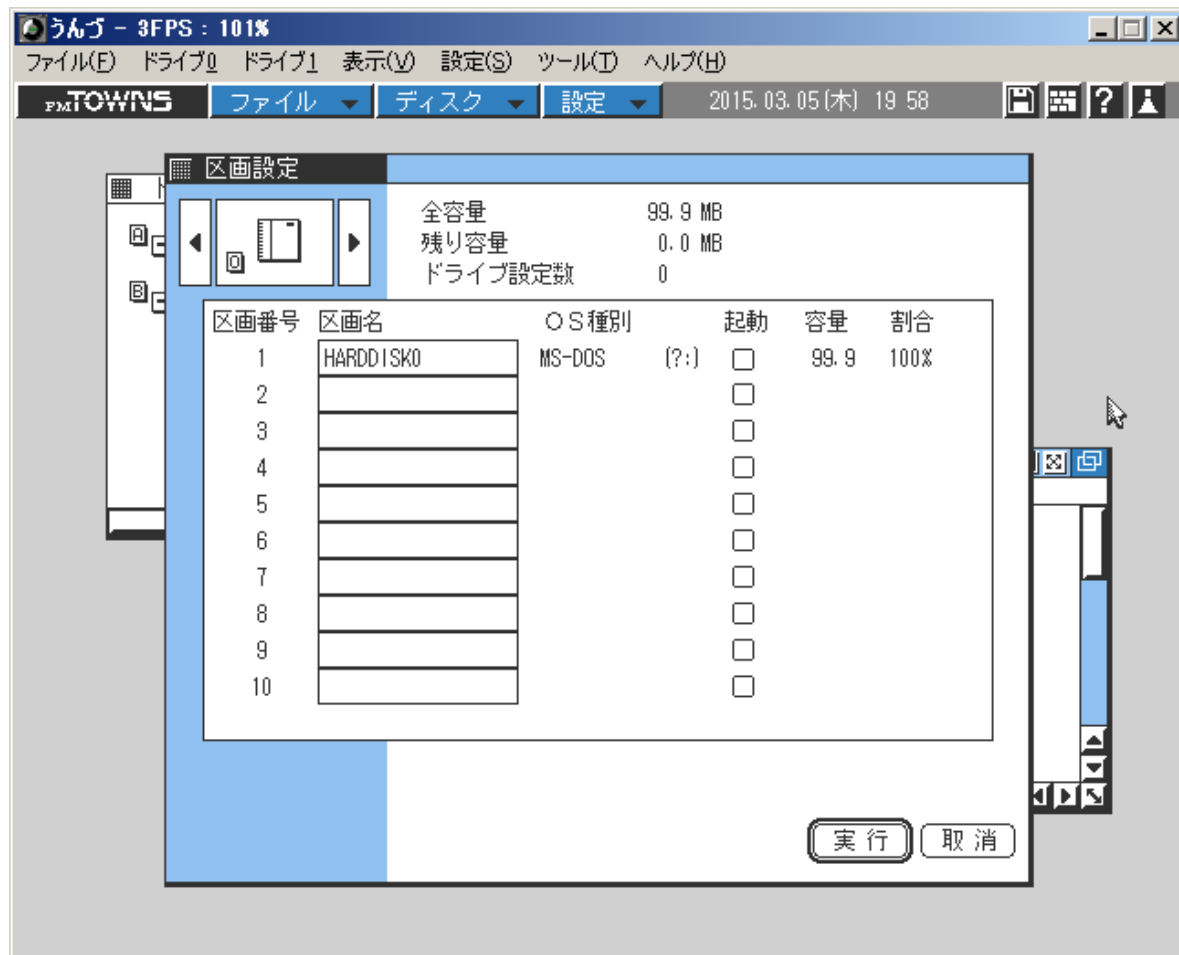


どのくらい割り当てるのか問い合わせてくるので「ALL」ボタンを押して全容量割り当てる。

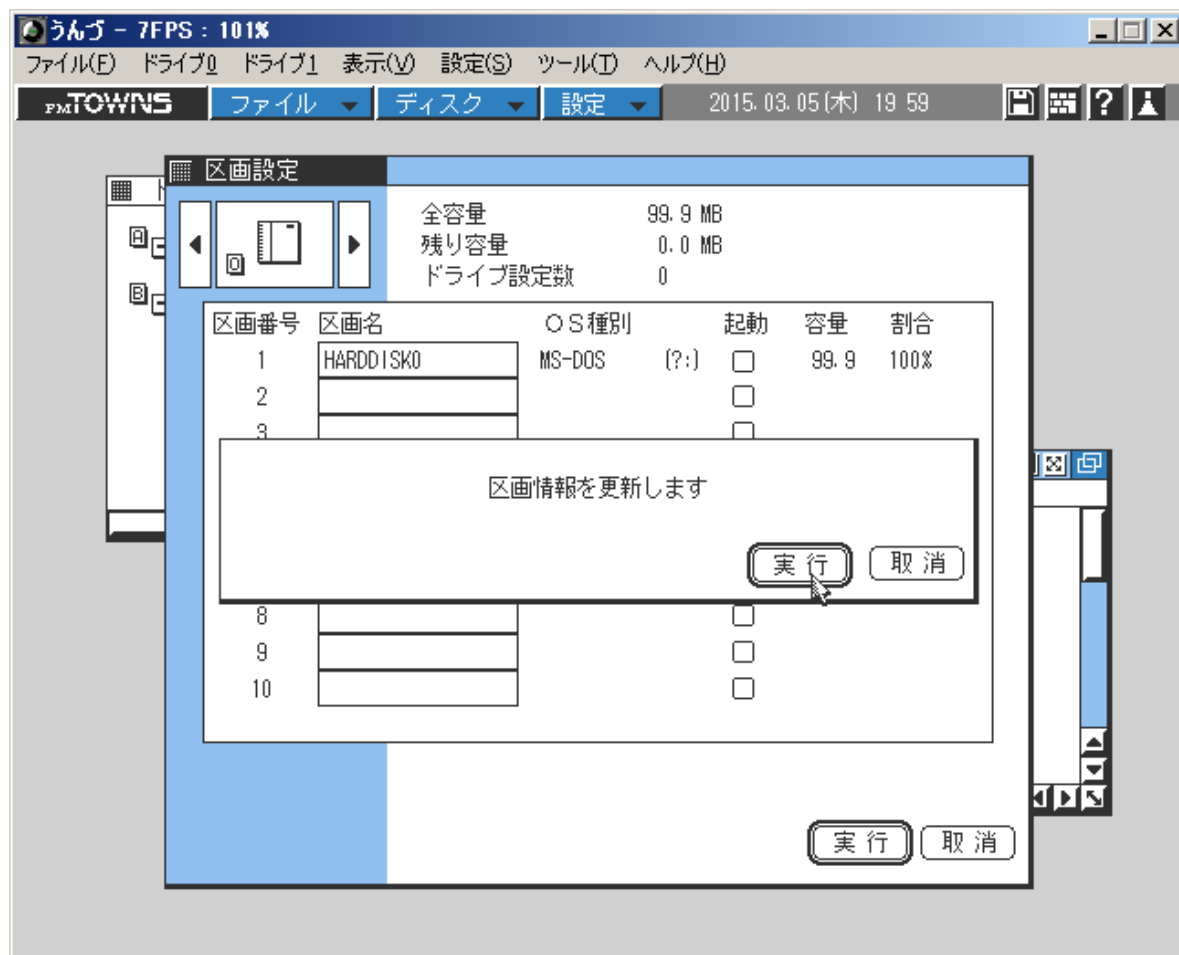
パーティションを分ける場合は、必要に応じて区画を分ければよい。



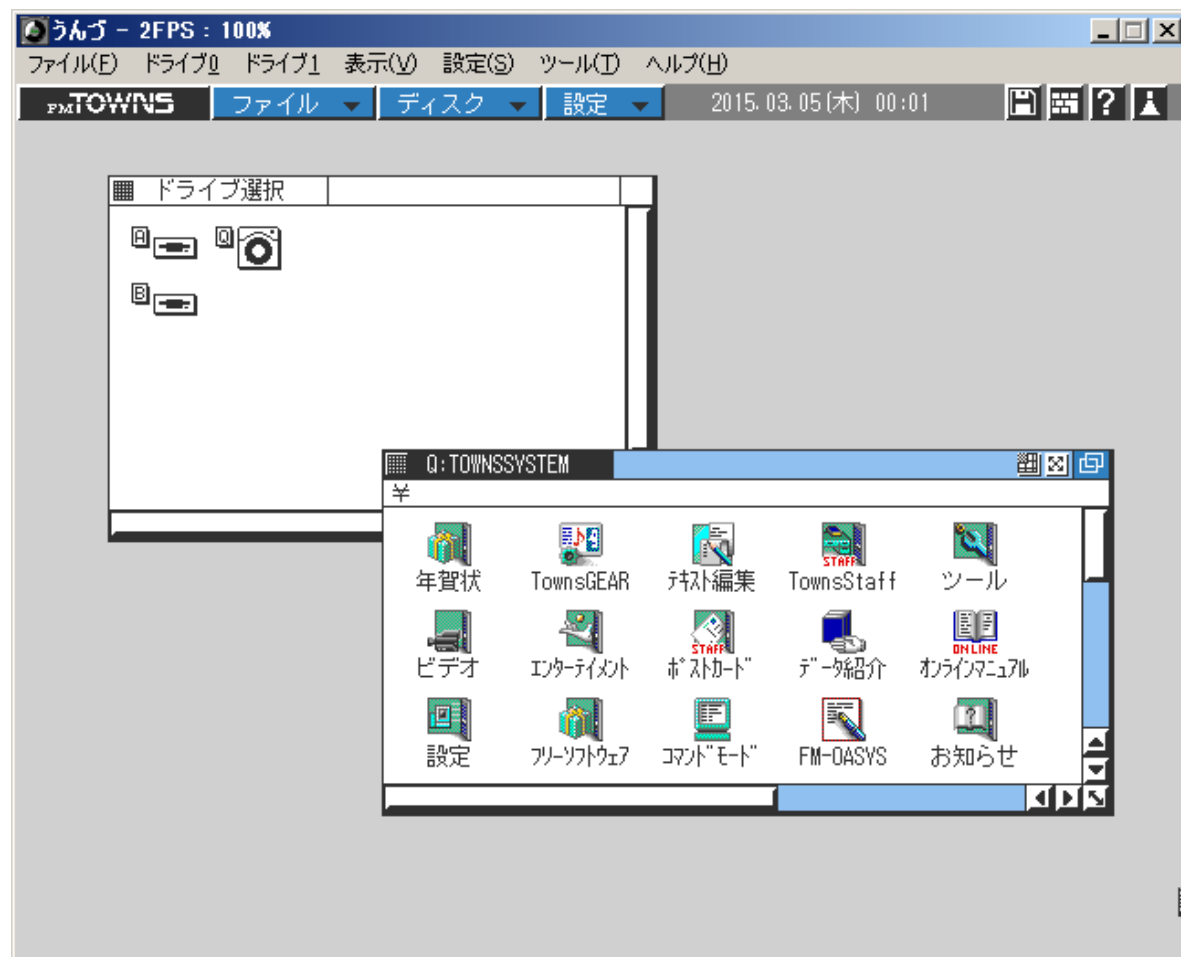
実行を押すと、とりあえず仮登録される。



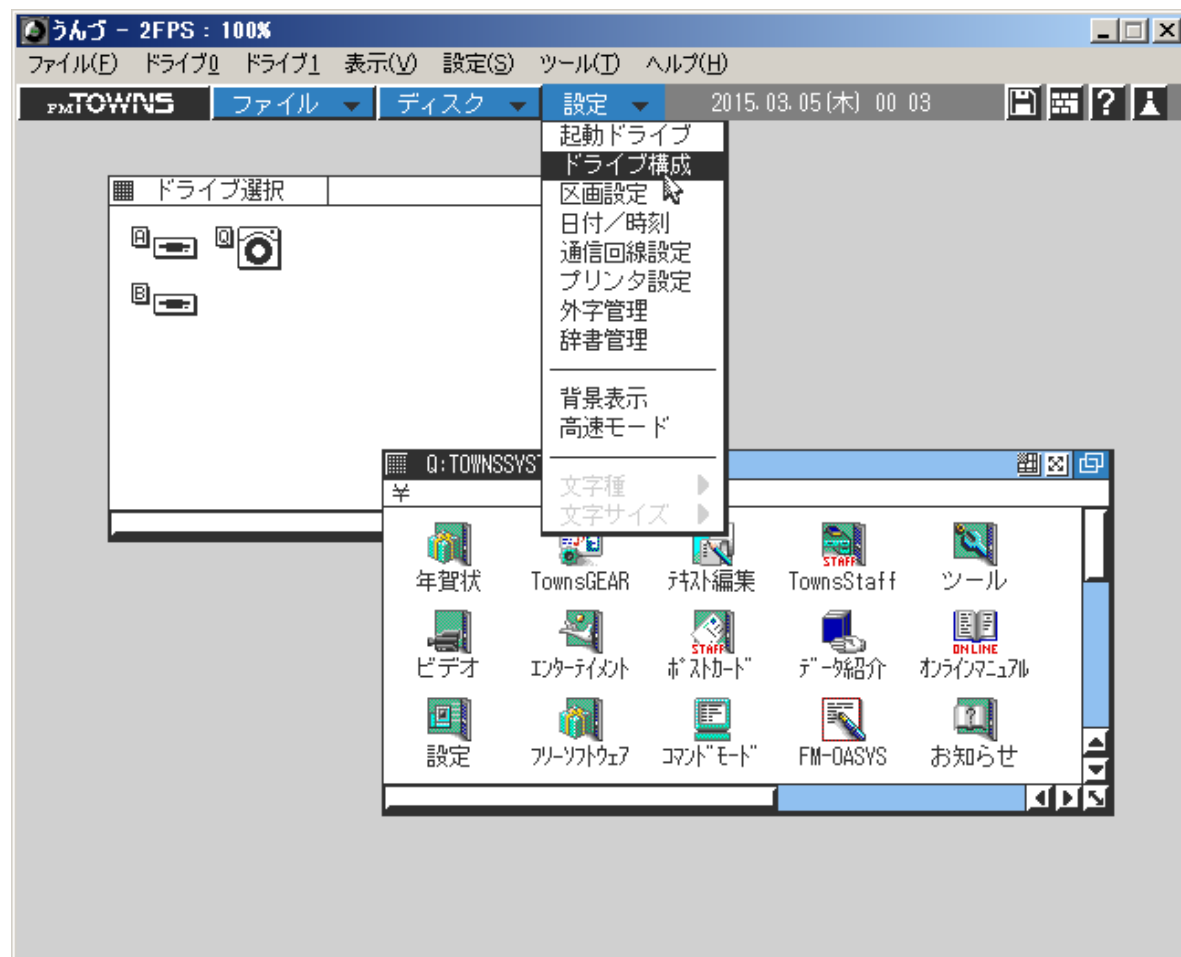
さらに実行を押し、「区画情報を更新します」の実行を押し。



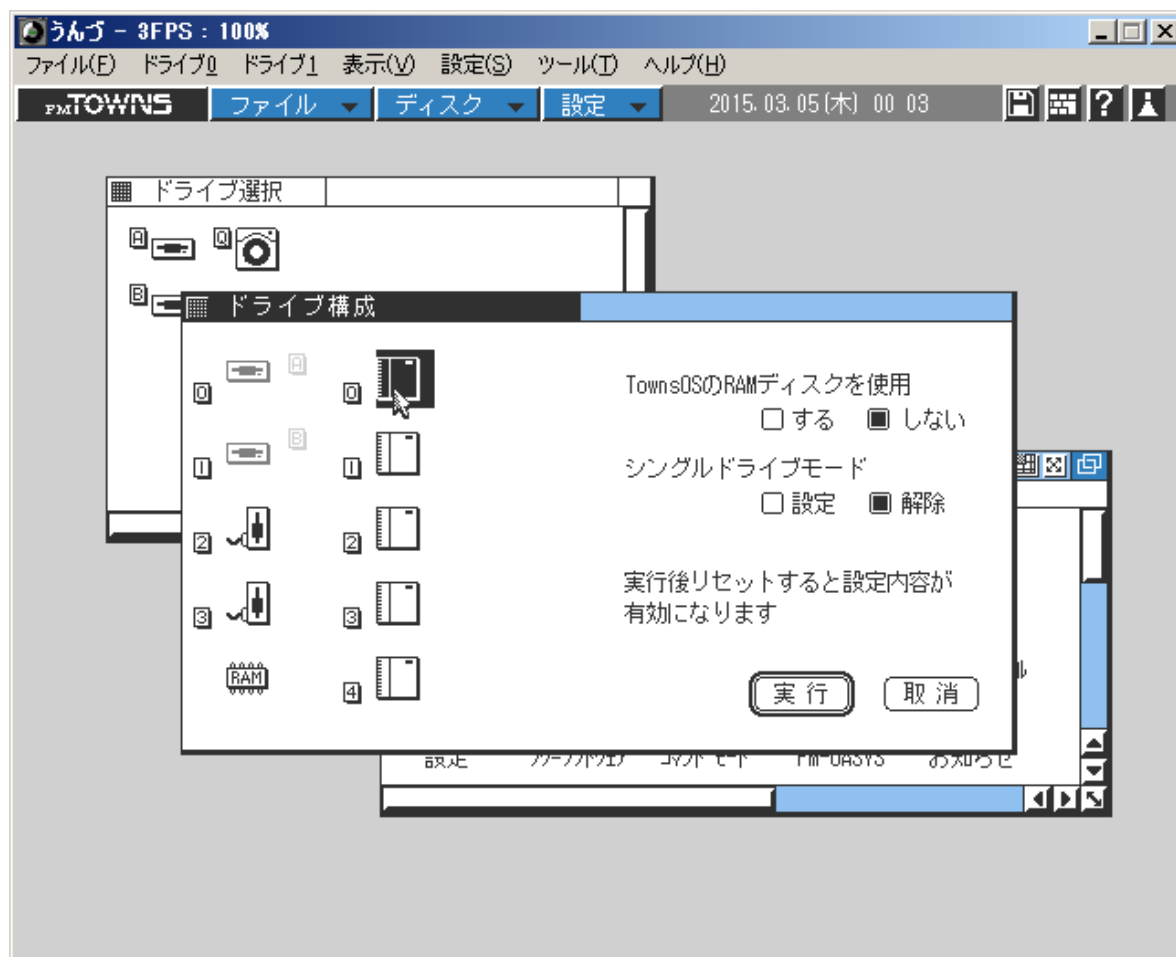
これで区画情報が登録されたので、window を閉じる



「設定」→「ドライブ構成」を選択する



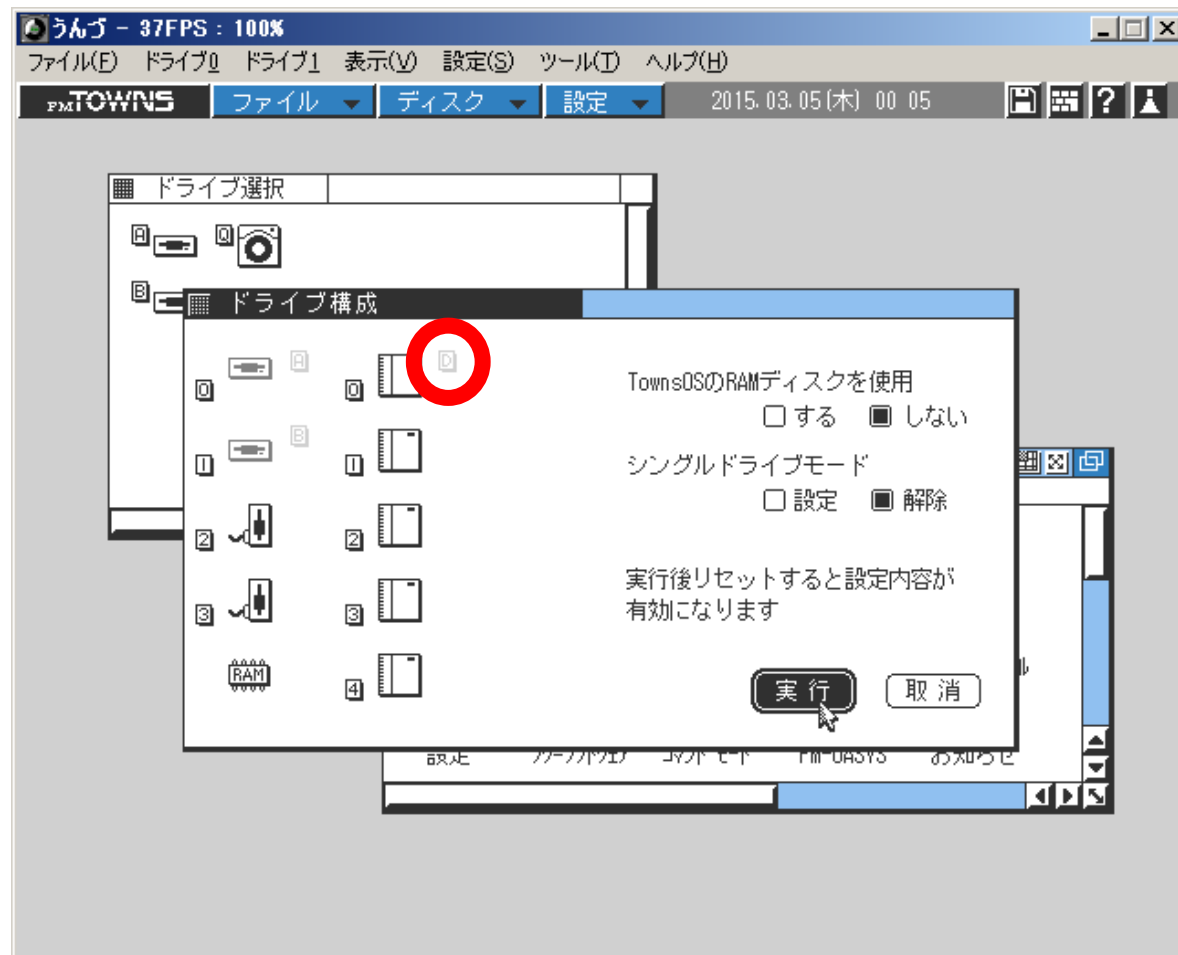
区画設定したハードディスクアイコンをクリックする



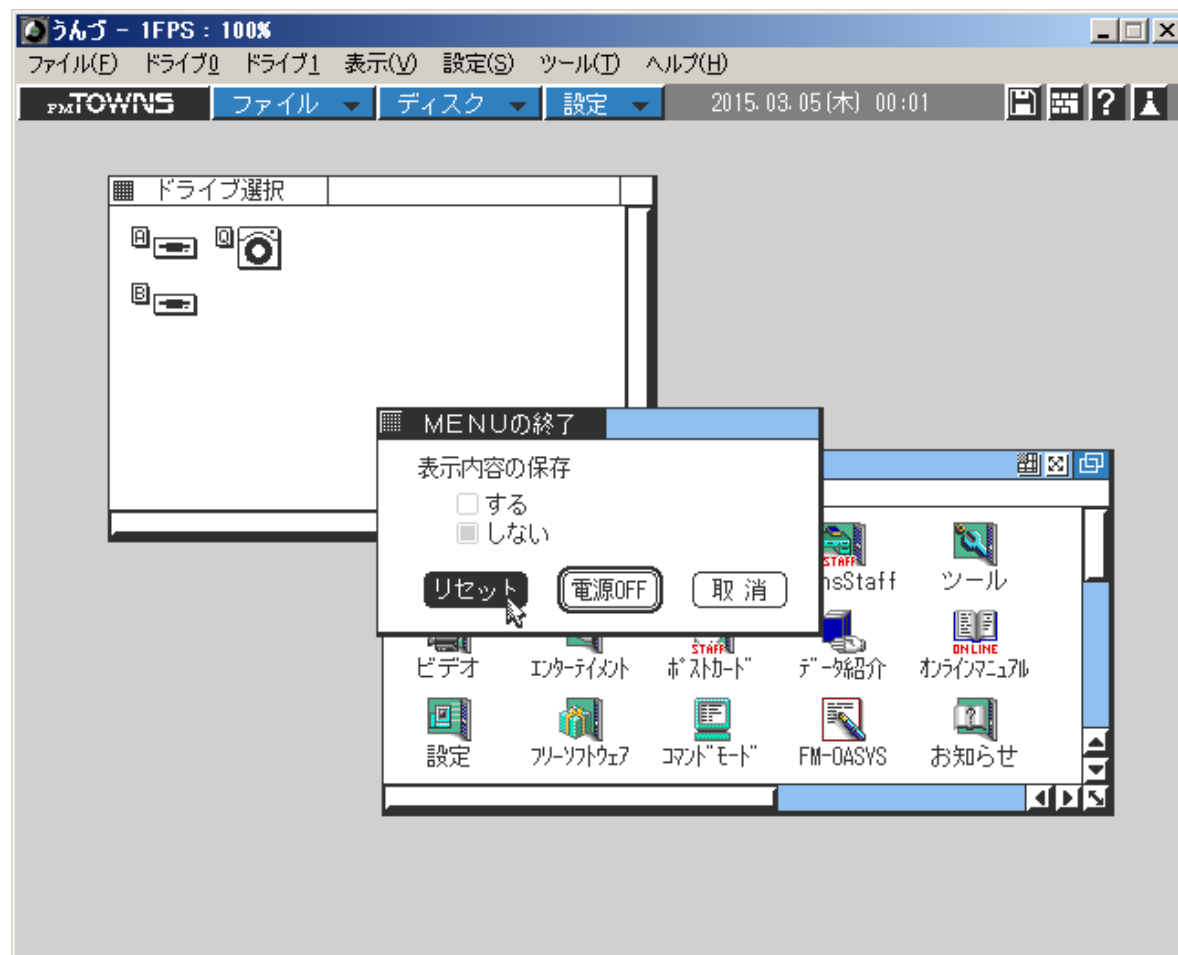
ドライブを追加する、にチェックを入れて実行を押す



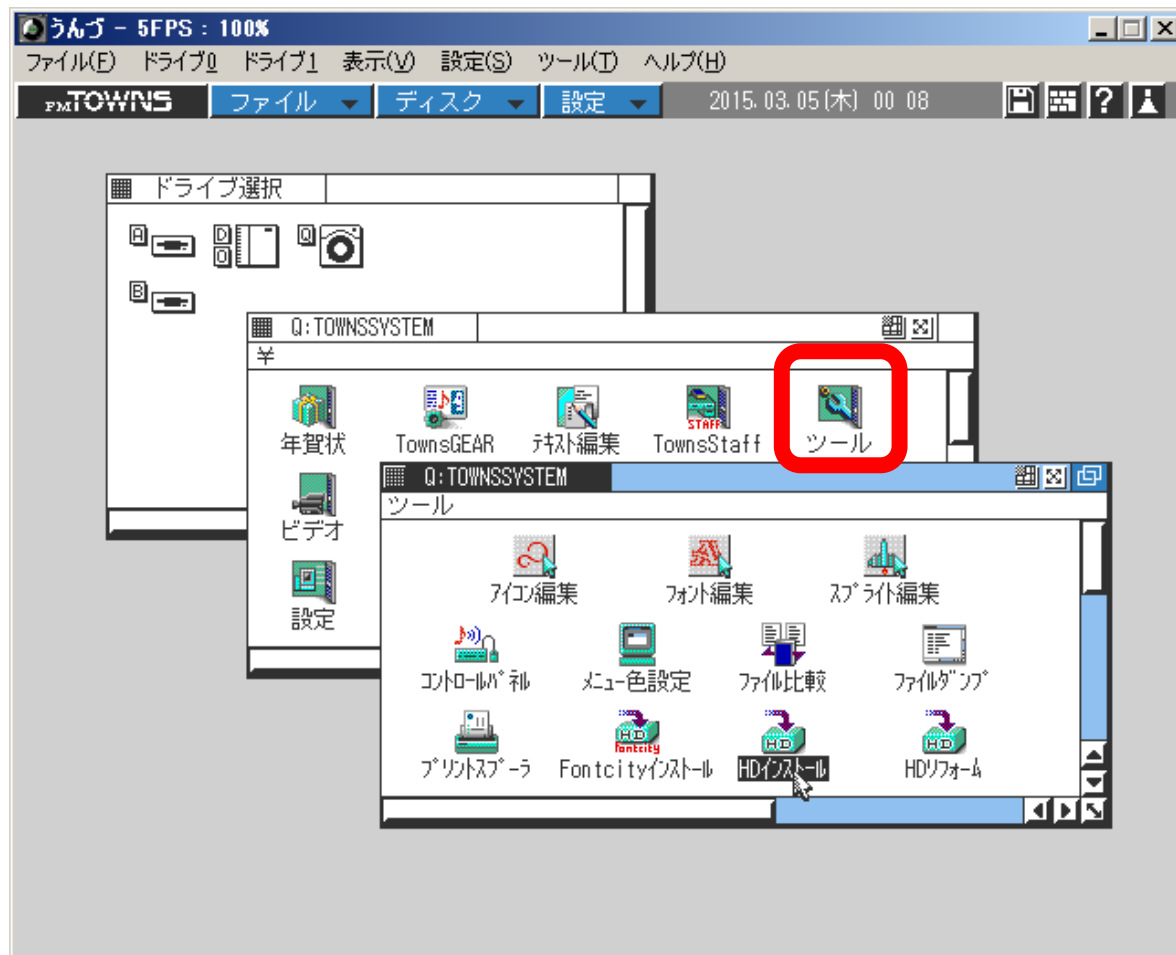
ハードディスクアイコンの横に灰色で小さなアイコンがあるのを確認したら実行を押す



右上のアイコンをクリックして TOWNS OS を再起動する

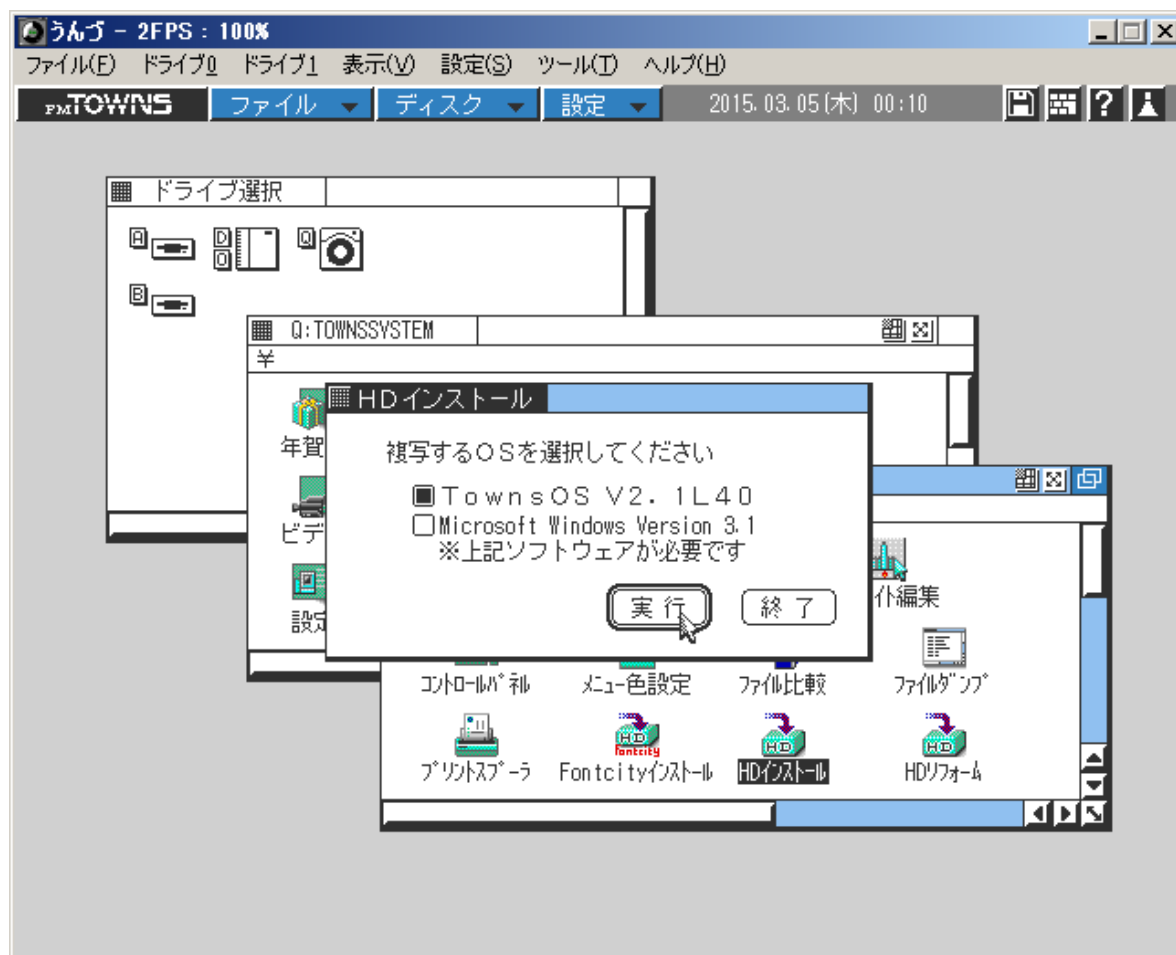


OS が起動したら、勝手に開いてるウィンドウ内の「ツール」をダブルクリックする。

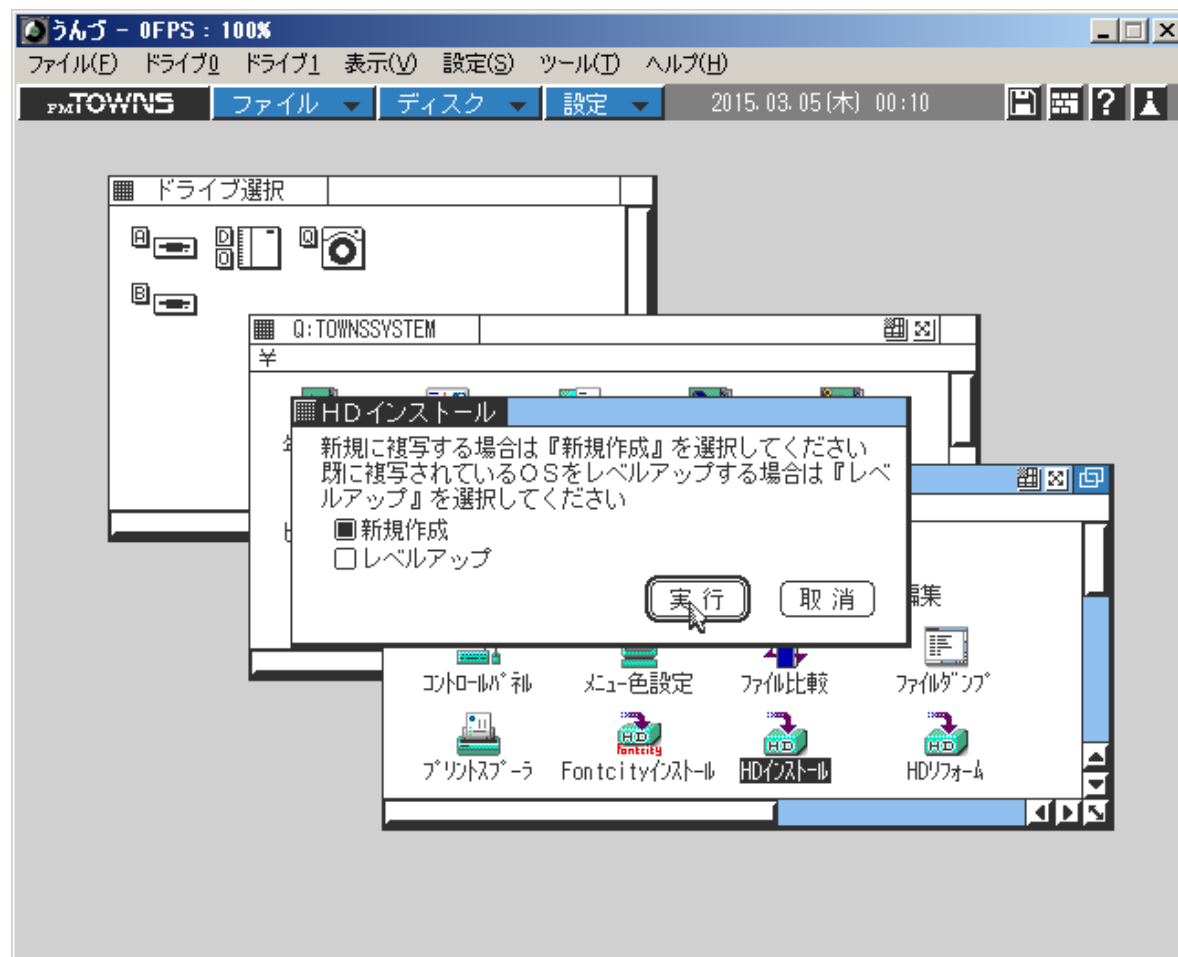


もう一枚ウィンドウが開くので、そこにある「HD インストール」をダブルクリックする。

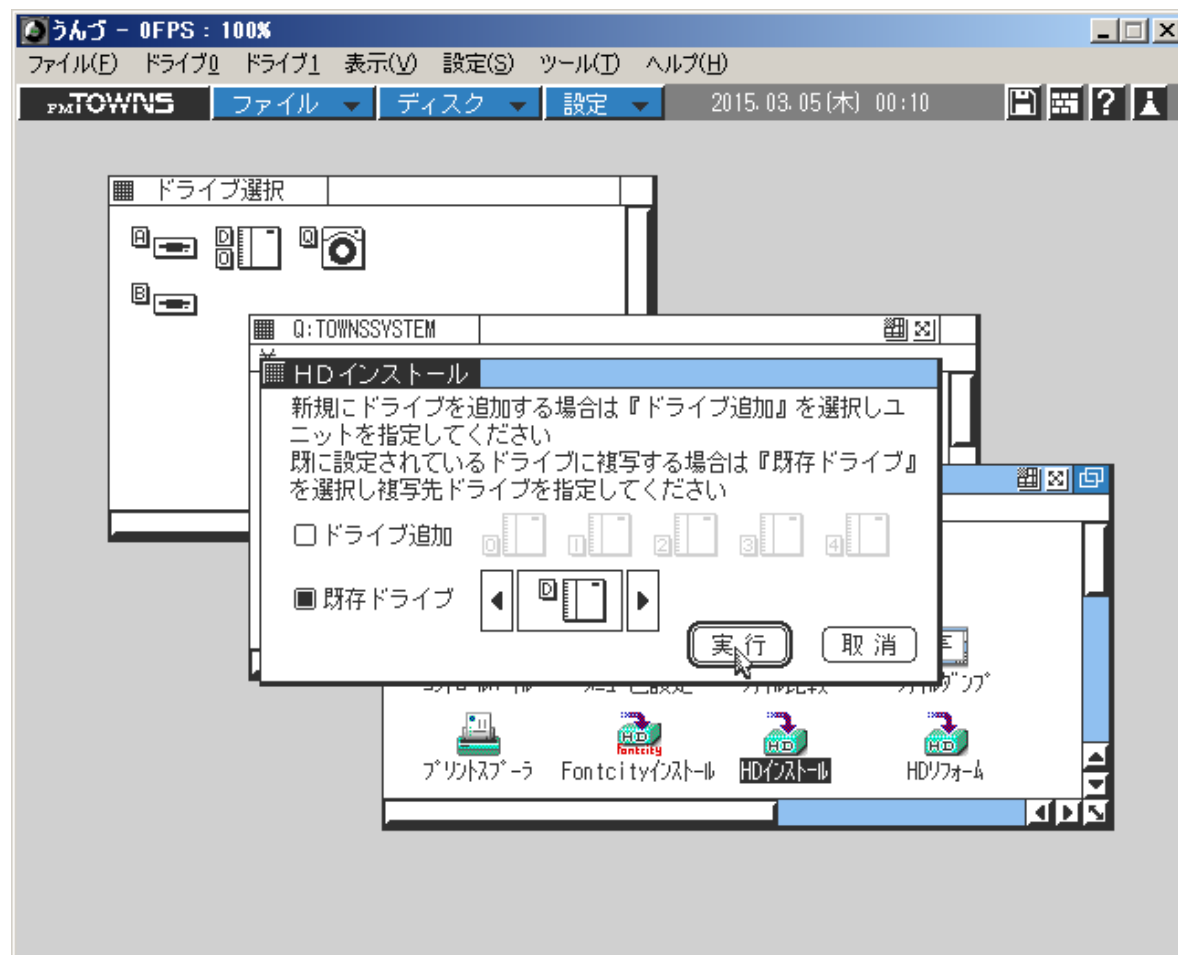
TOWNS OS を選択して実行を押す



新規作成を選択して実行を押す

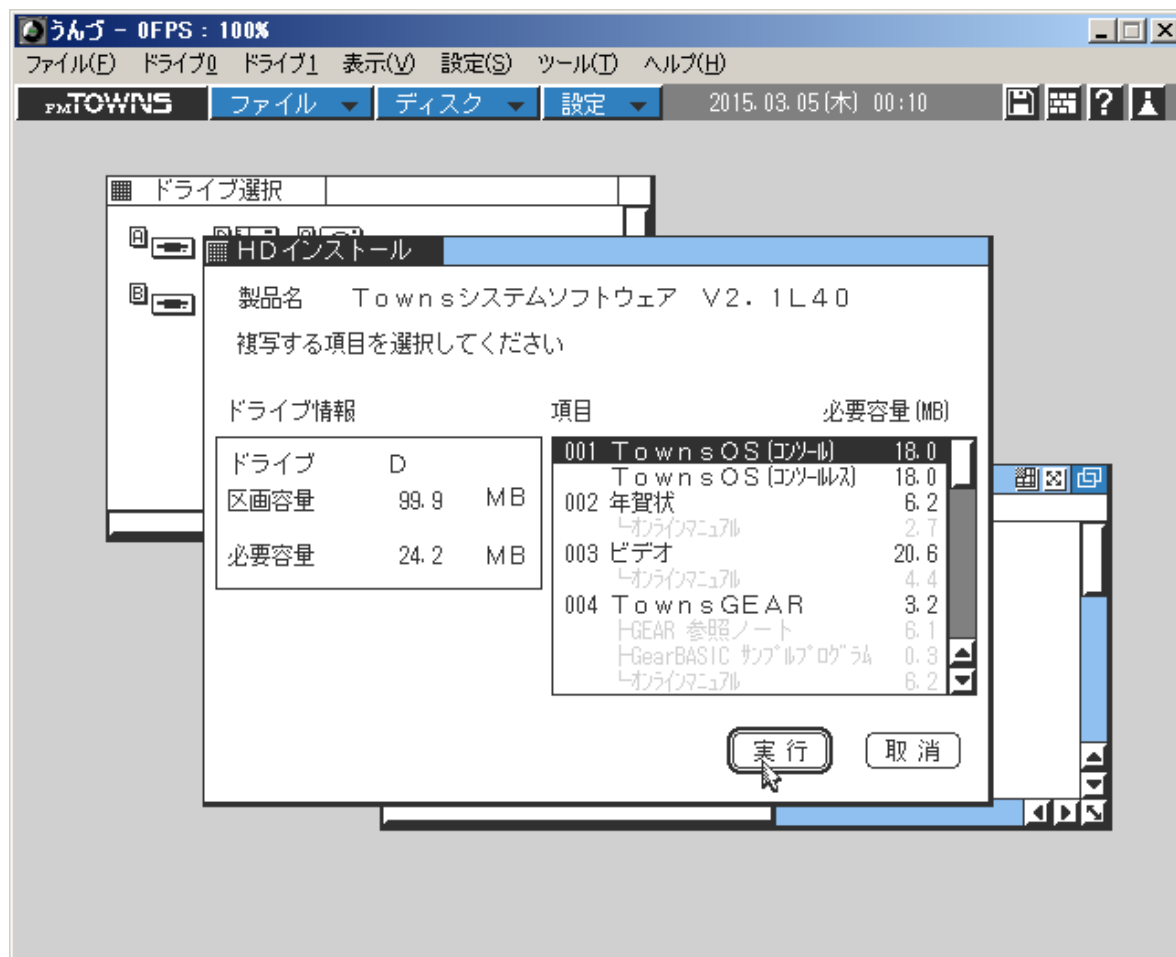


既にドライブ追加等の設定をやっているで「既存ドライブ」で追加した HDD を選んで実行を押す

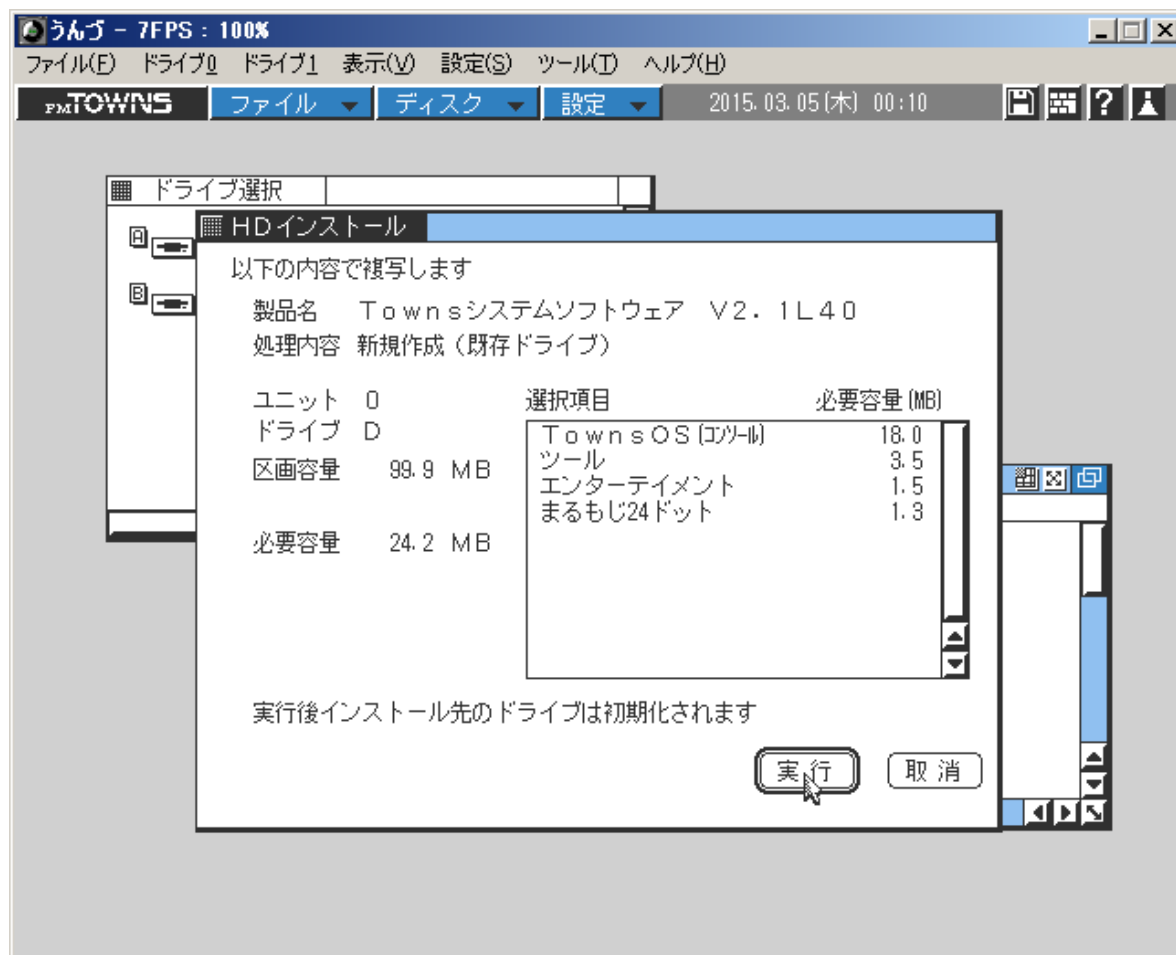




インストールするものを右側のリストから選択し、実行をおす

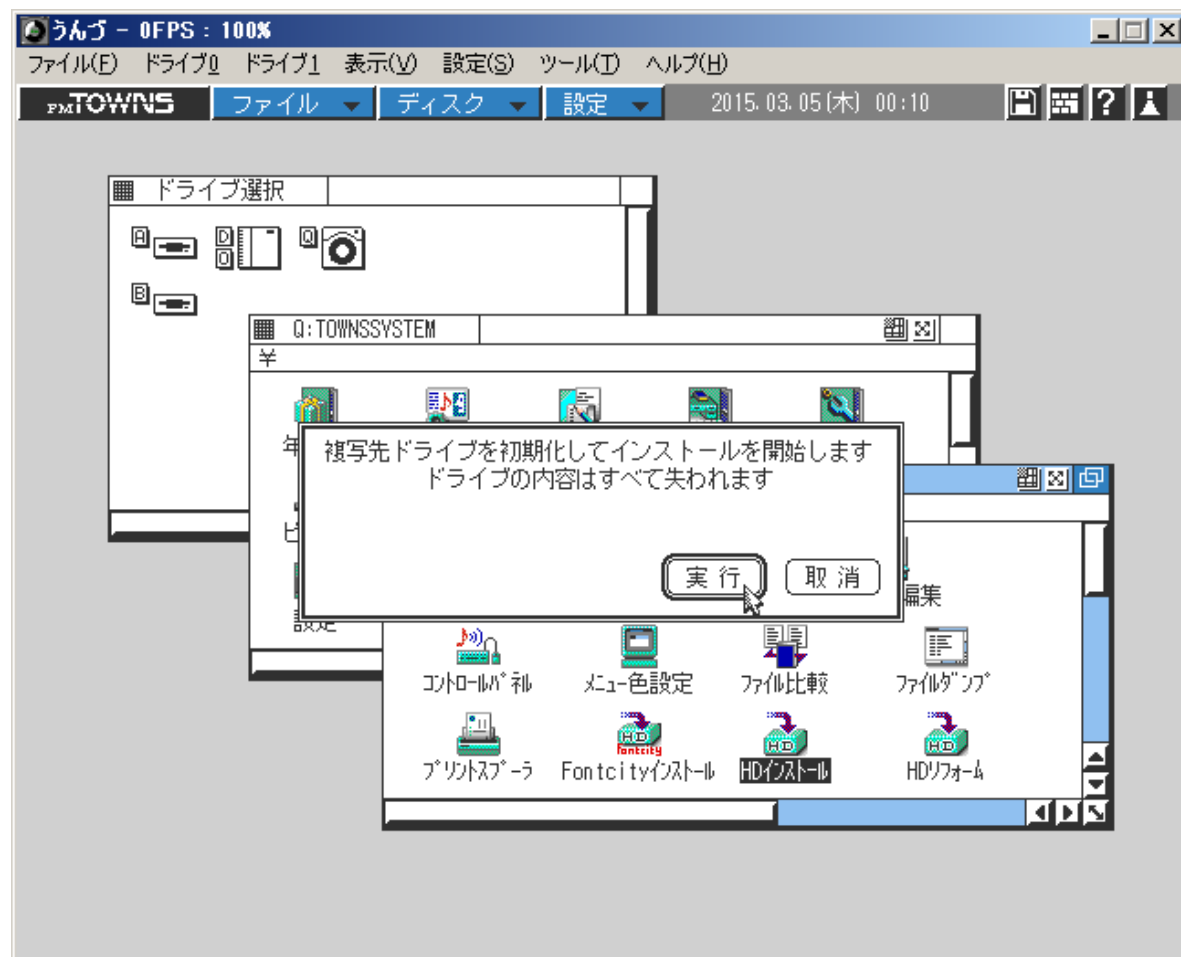


ツールとエンターテイメントは入れておくほうがいいと思う（個人的に）

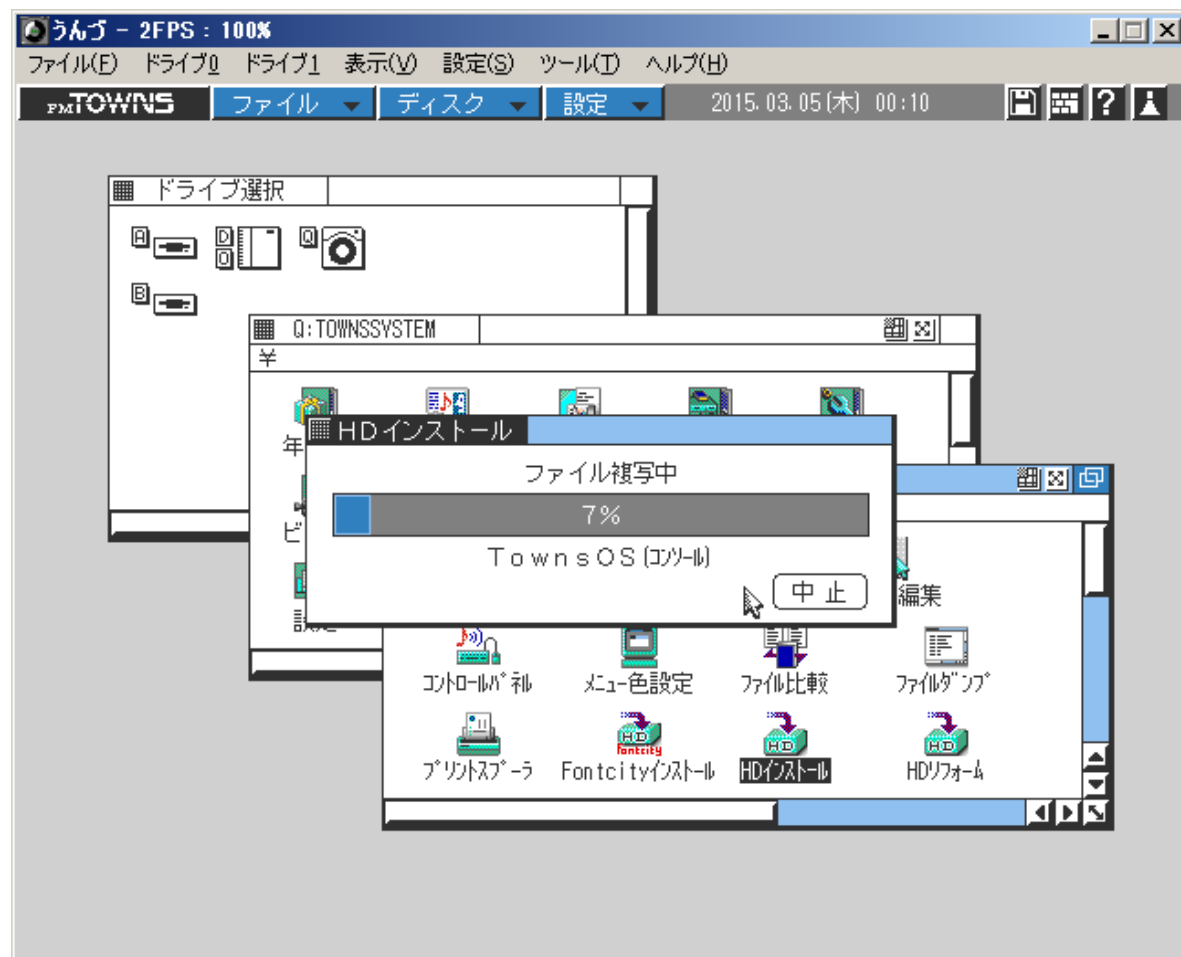


選択漏れ等がなければ実行を押す

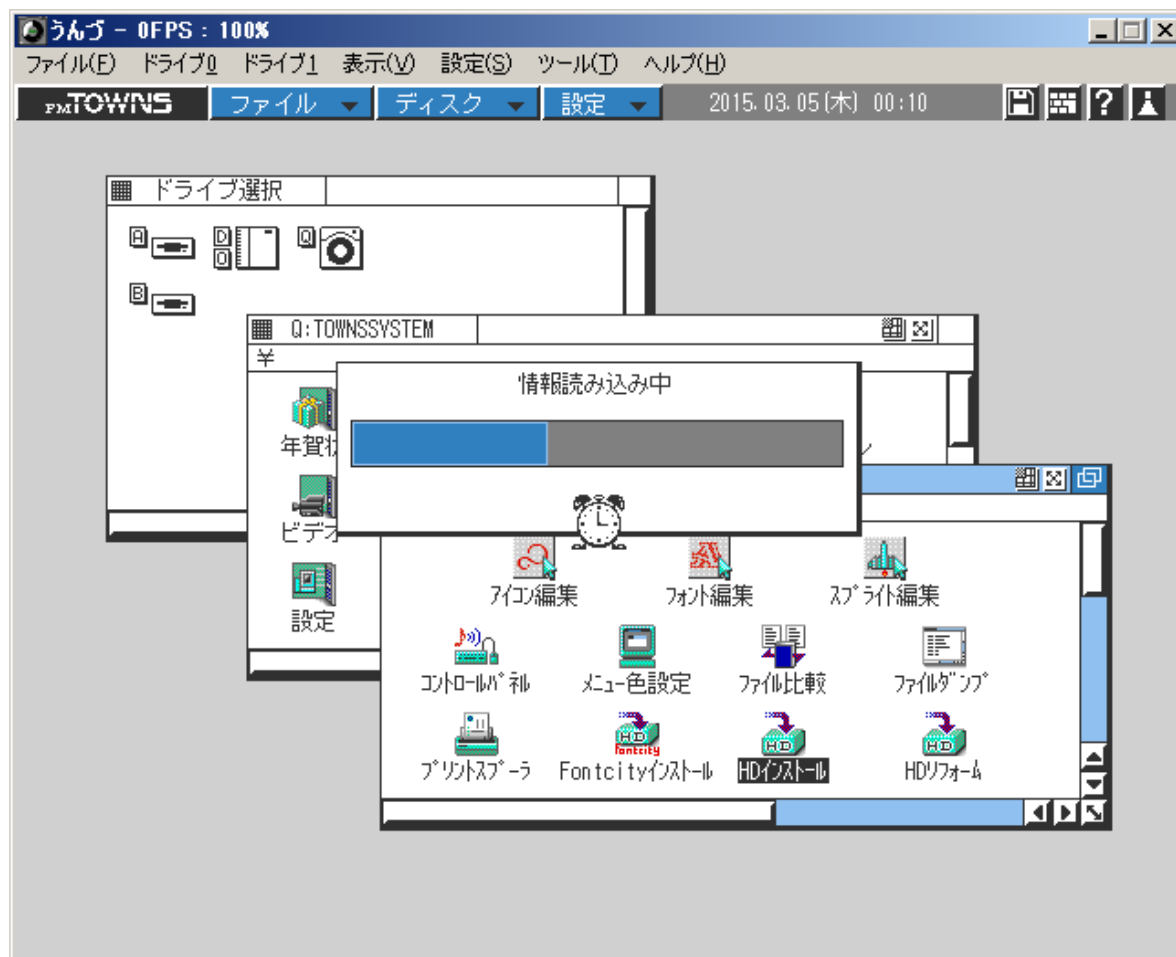
最後の警告が出てくるので実行を押す



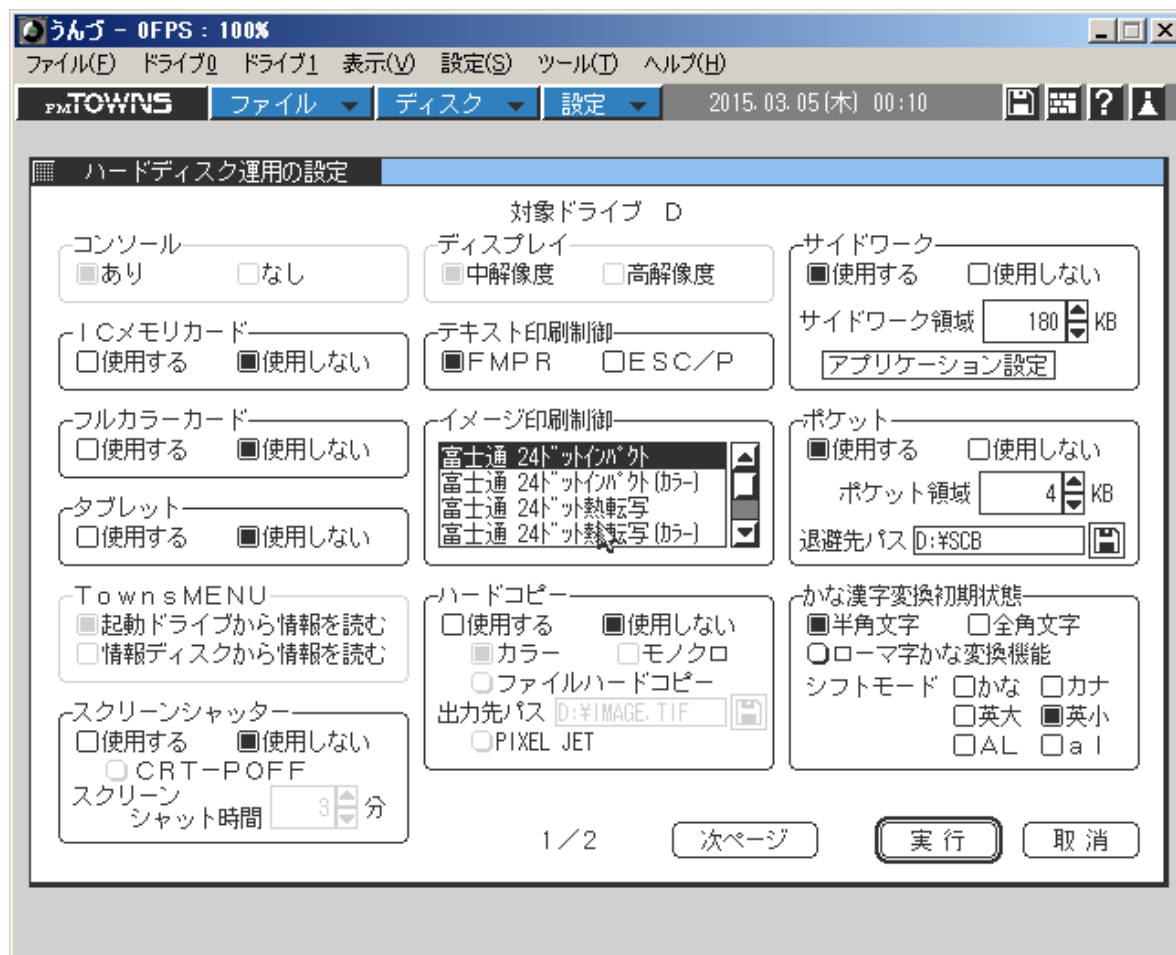
ハードディスクインストールが行われるので、しばらく待つ。



インストールが終わると設定を読み込みに行く。



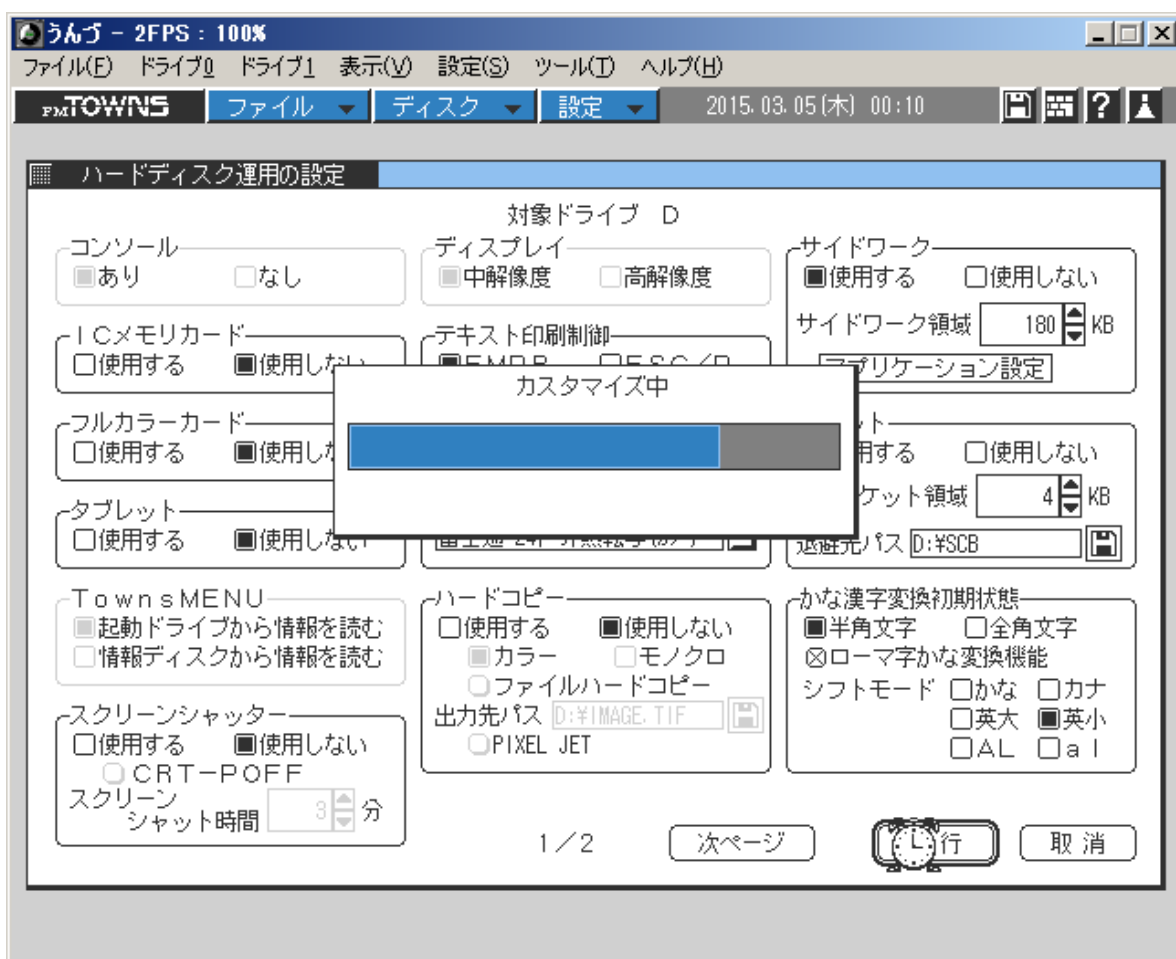
ハードディスク運用設定画面が出るので、設定を行う（基本的にローマ字かな変換にチェック入れる程度かと）



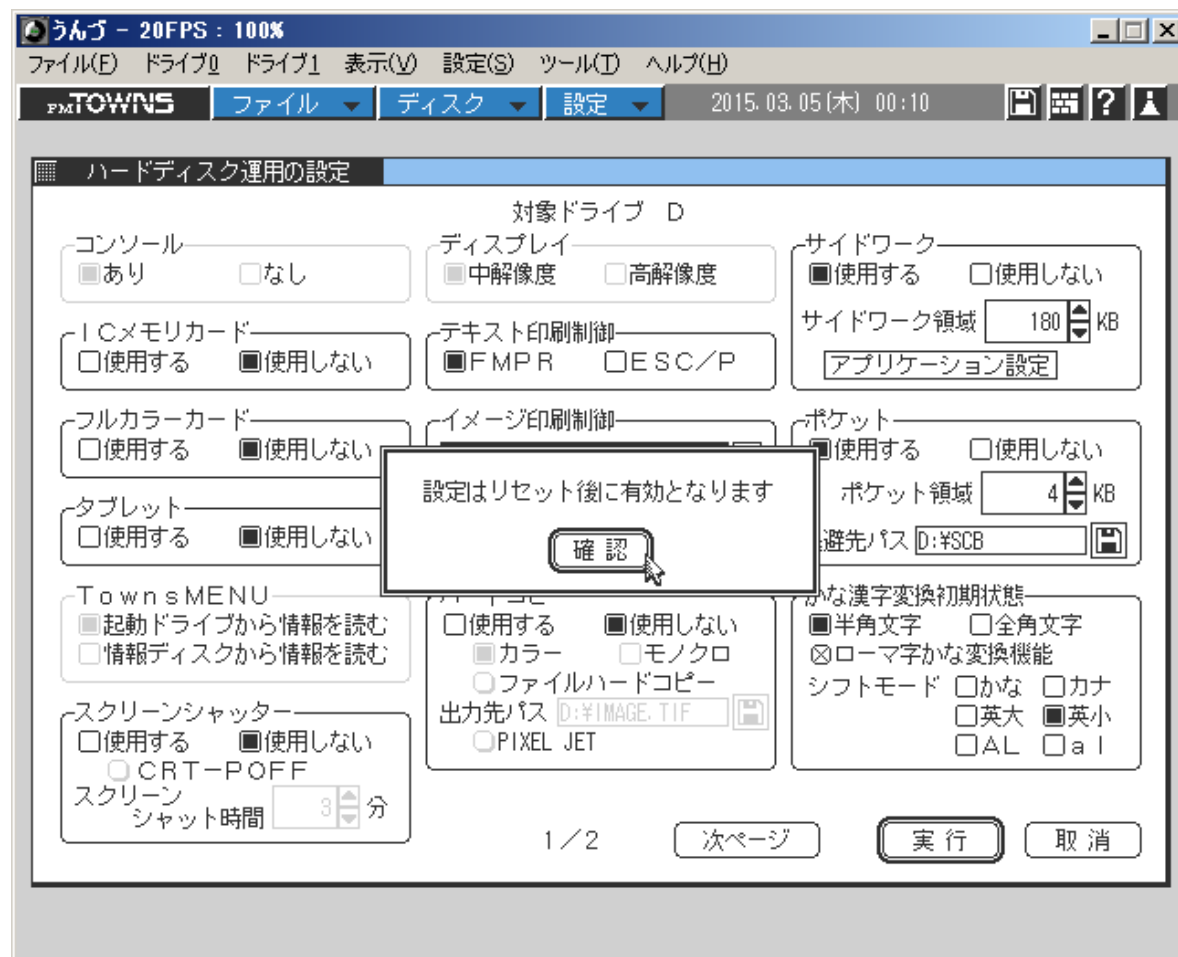
次ページがあるので設定漏れが出ないように注意



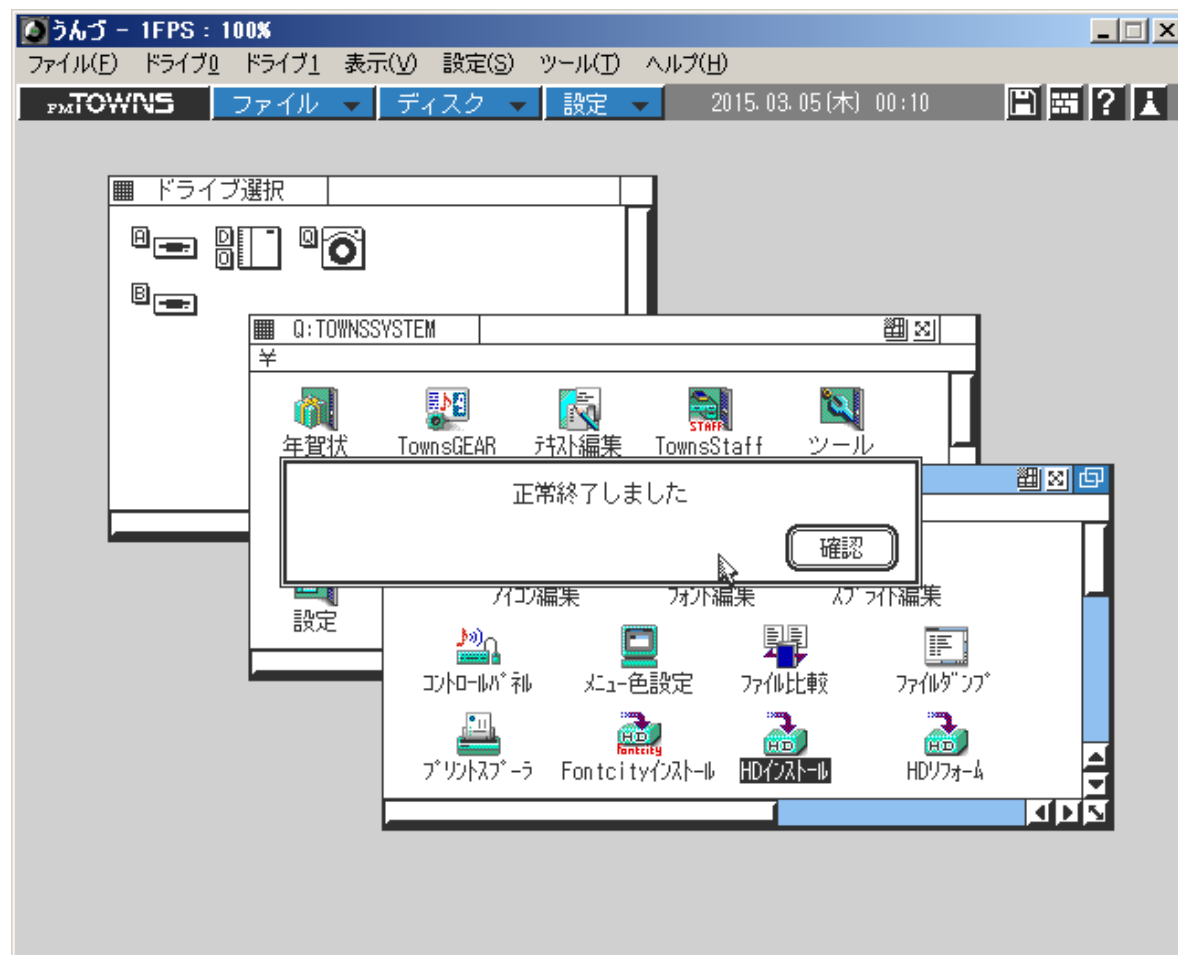
設定したら実行をおして確定



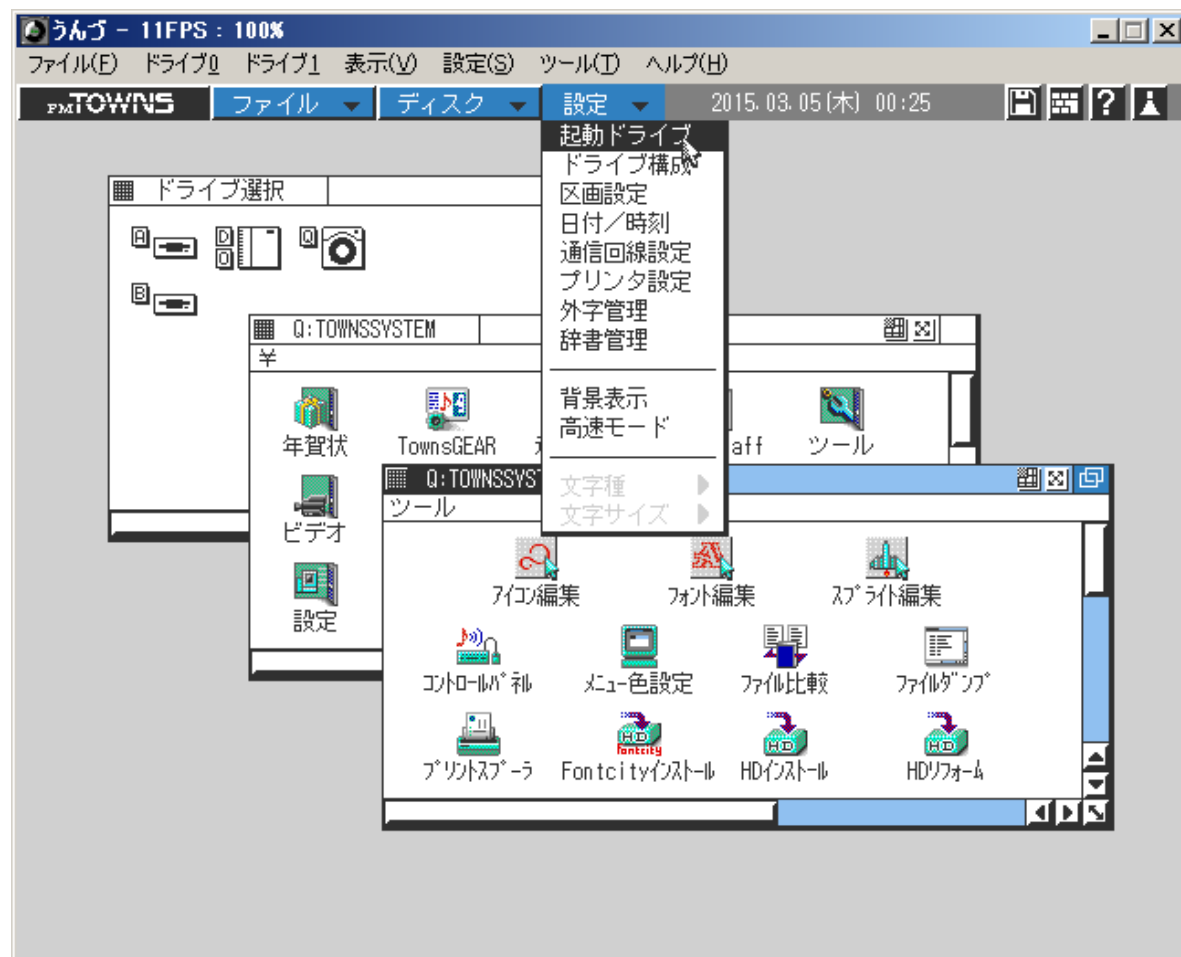
リセット後有効のウィンドウにある確認を押す



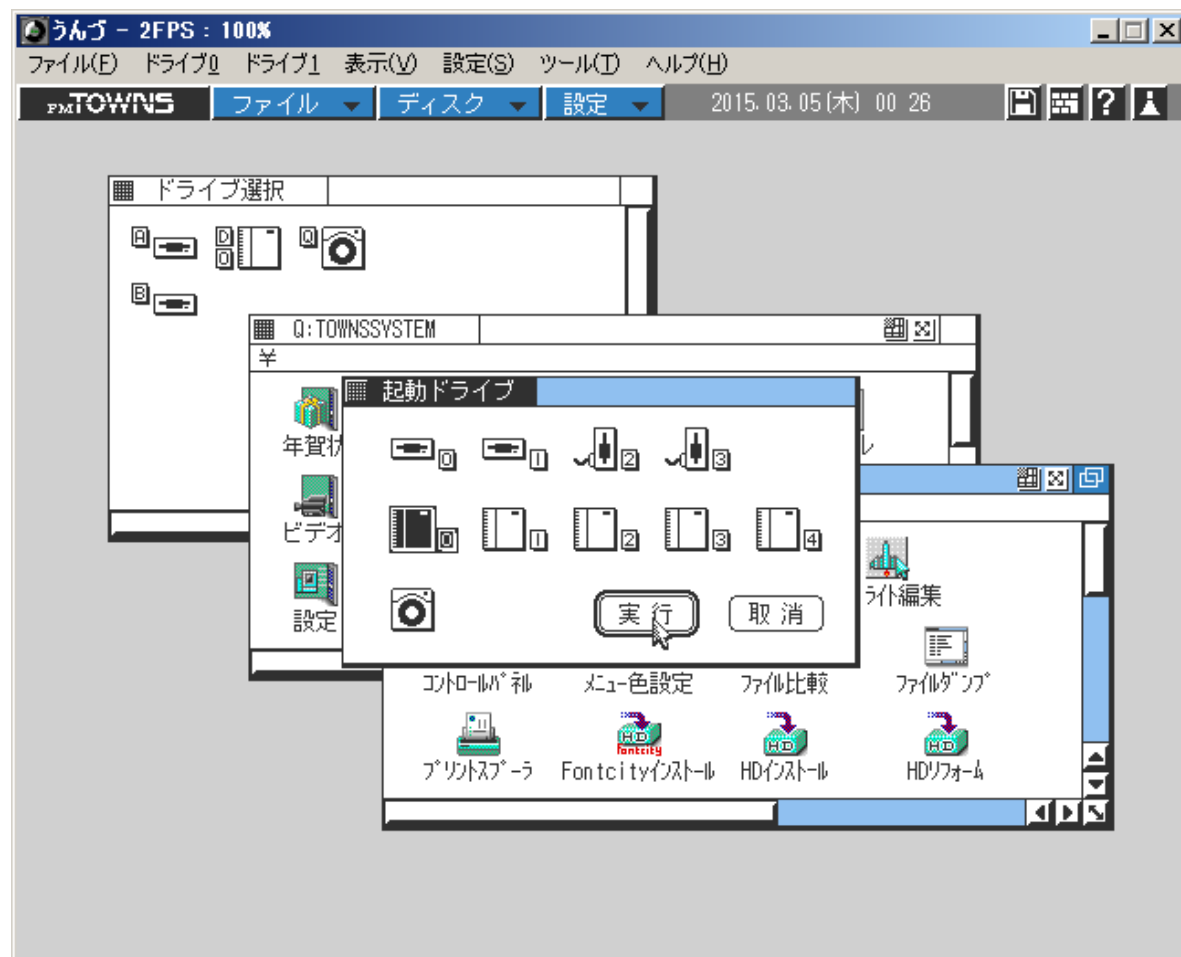
正常終了しました、のウィンドウにある確認を押す



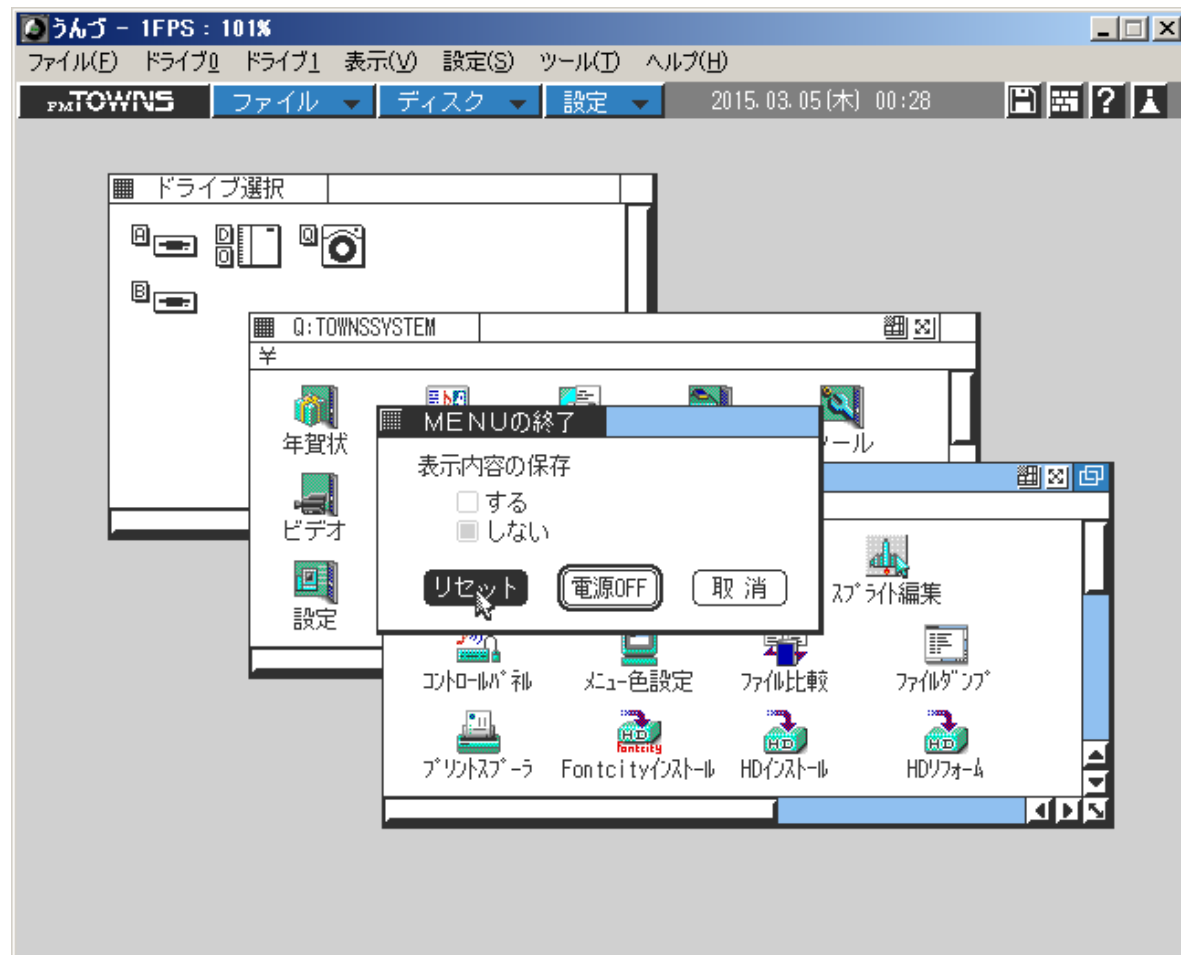
「設定」→「起動ドライブ」を選択



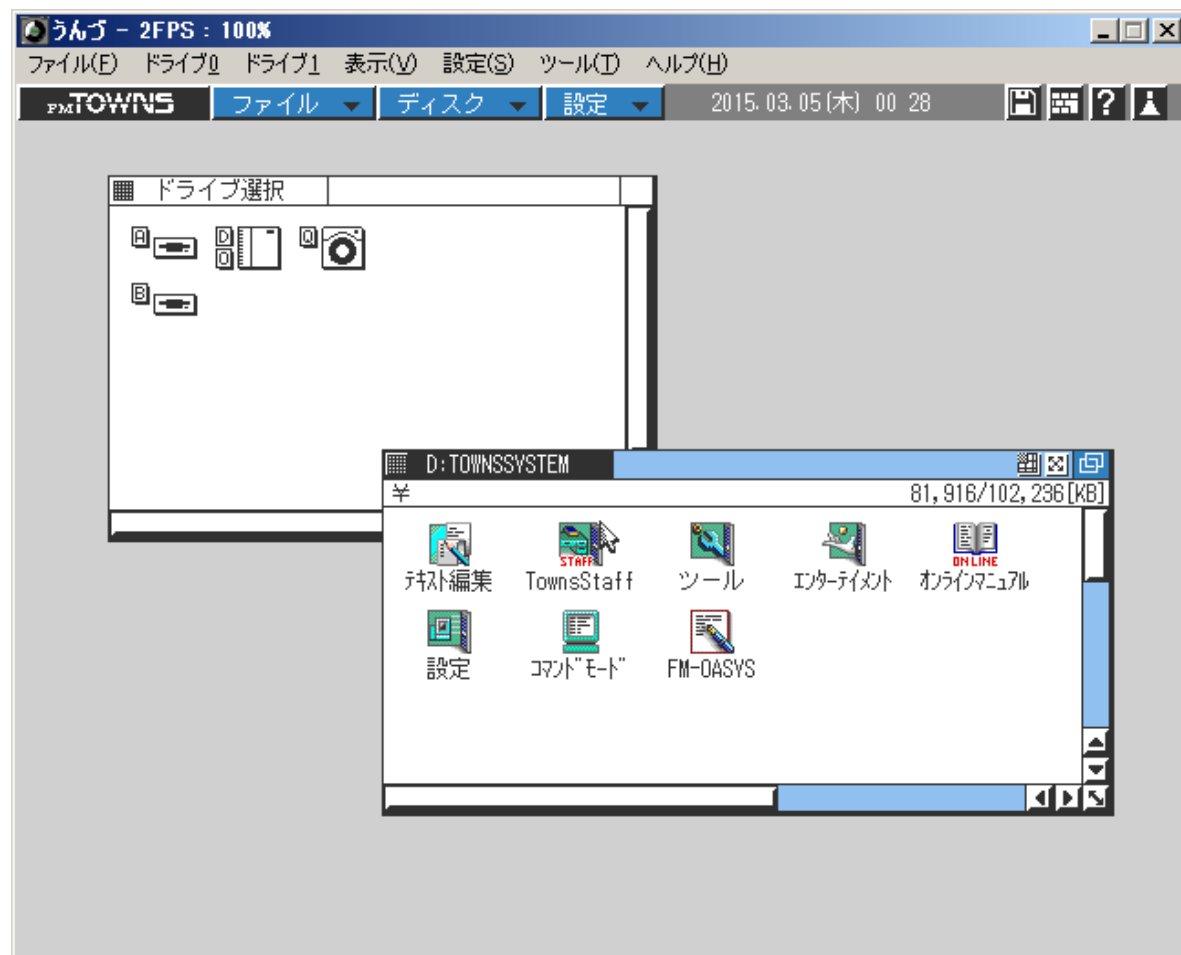
たぶん増やした HDD ユニットが選択されているので実行を押す



リセットする。

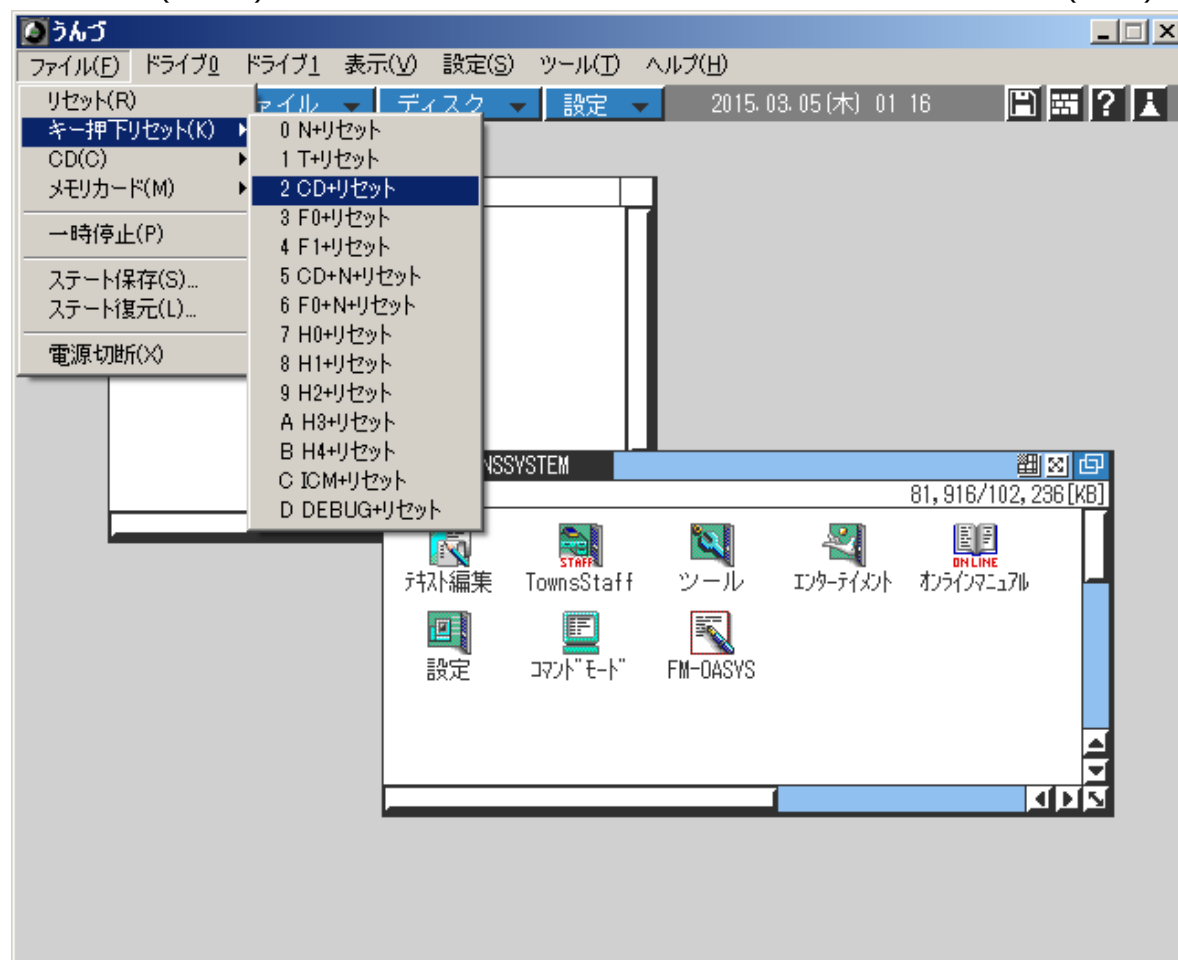


CD なしで TOWNS OS が起動したことを確認（CD 起動より早くなってるはず）

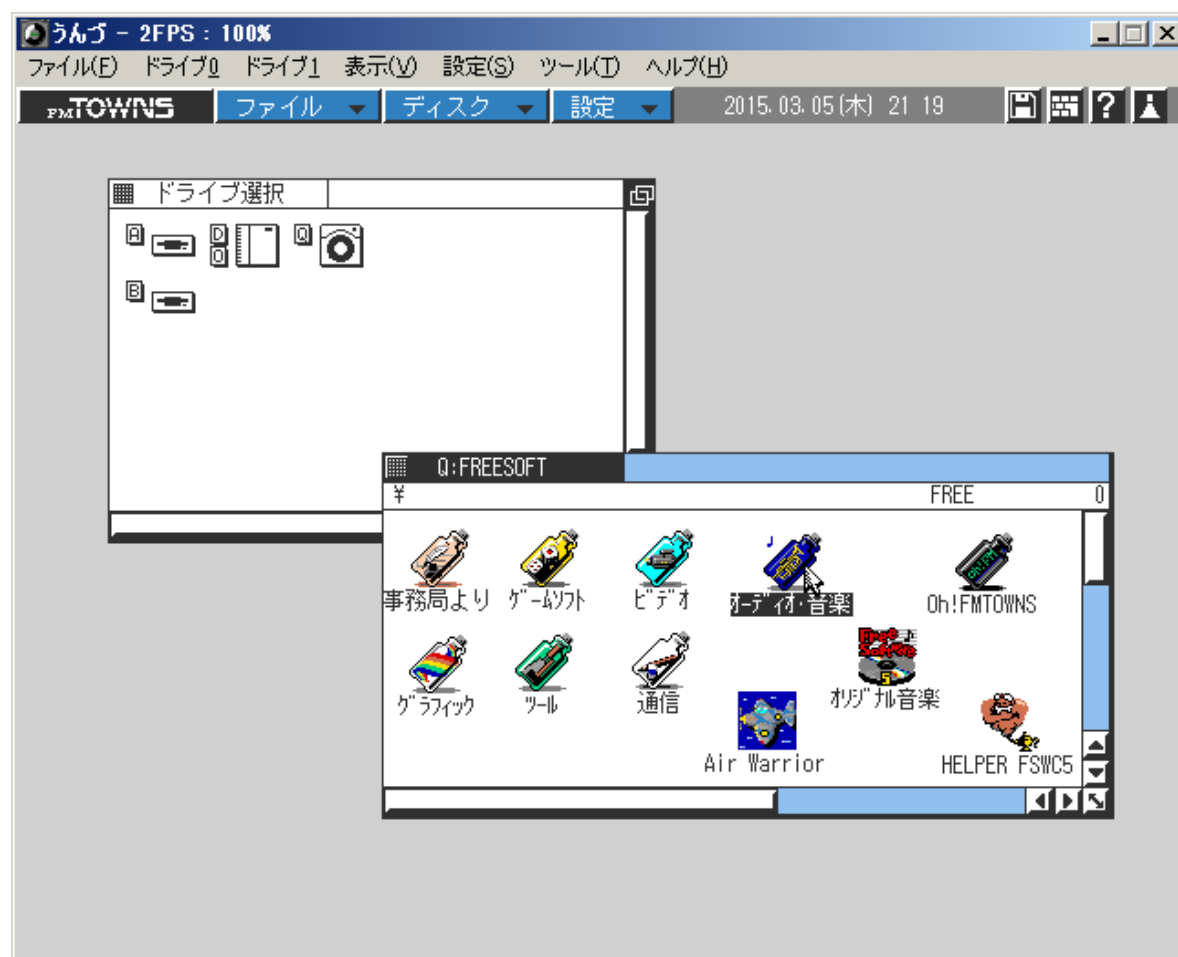


CD ドライブにフリコレを入れ、CD ドライブから起動するようにリセットする

新しいフリコレ(11 とか)ではインストーラから入れても正常にコンパイルできないので、古めのフリコレ(5 とか)が望ましい。

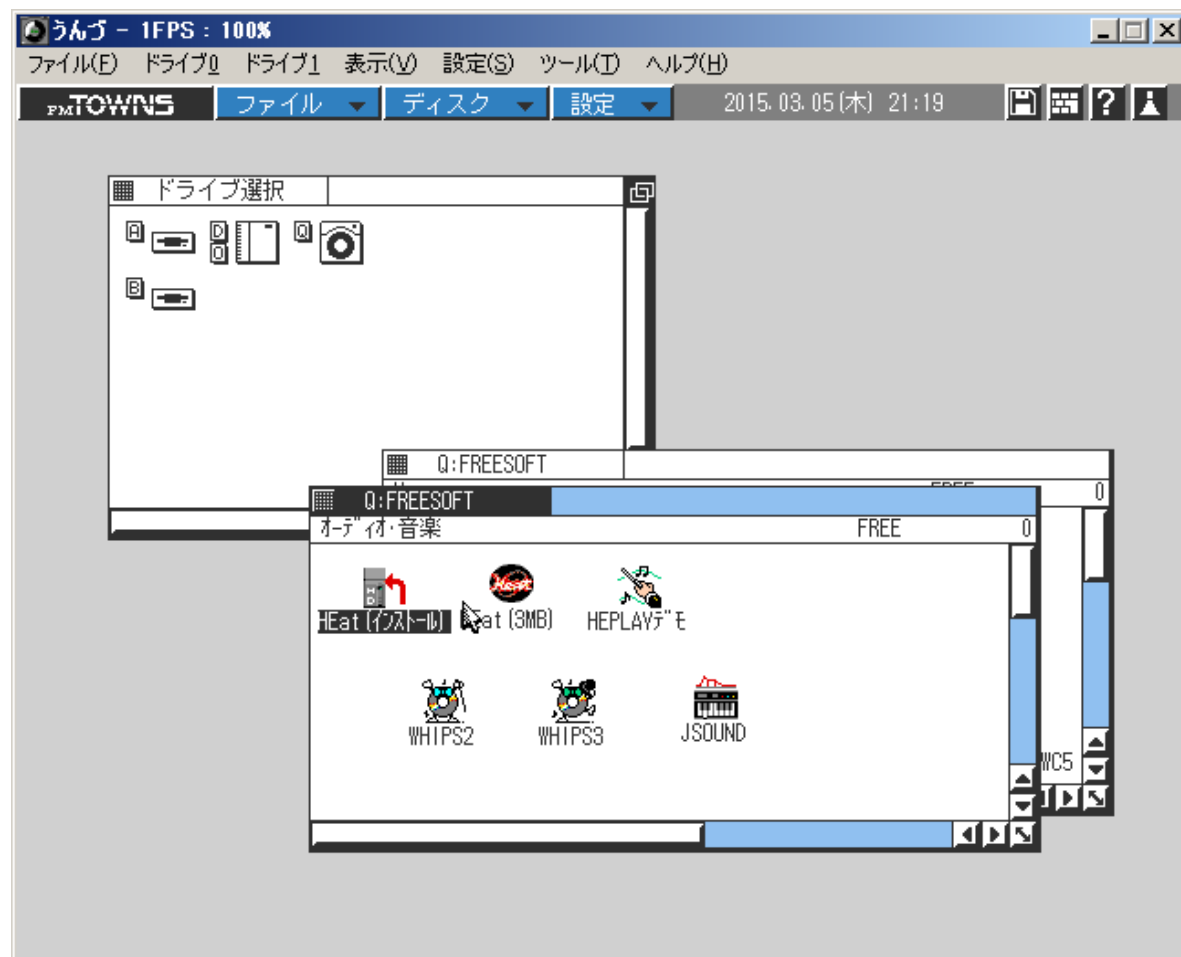


オーディオ・音楽をダブルクリック

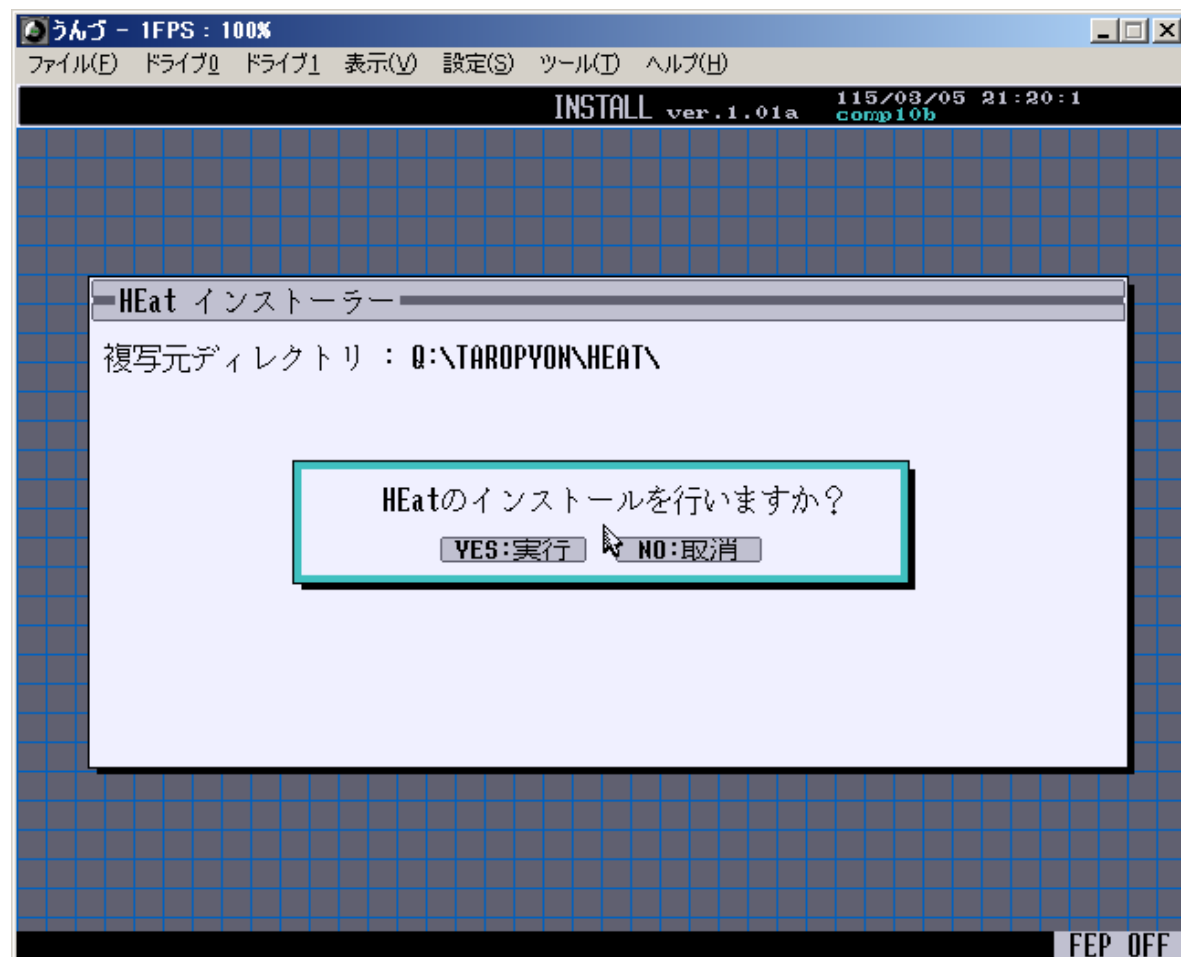




HEat インストールをダブルクリック



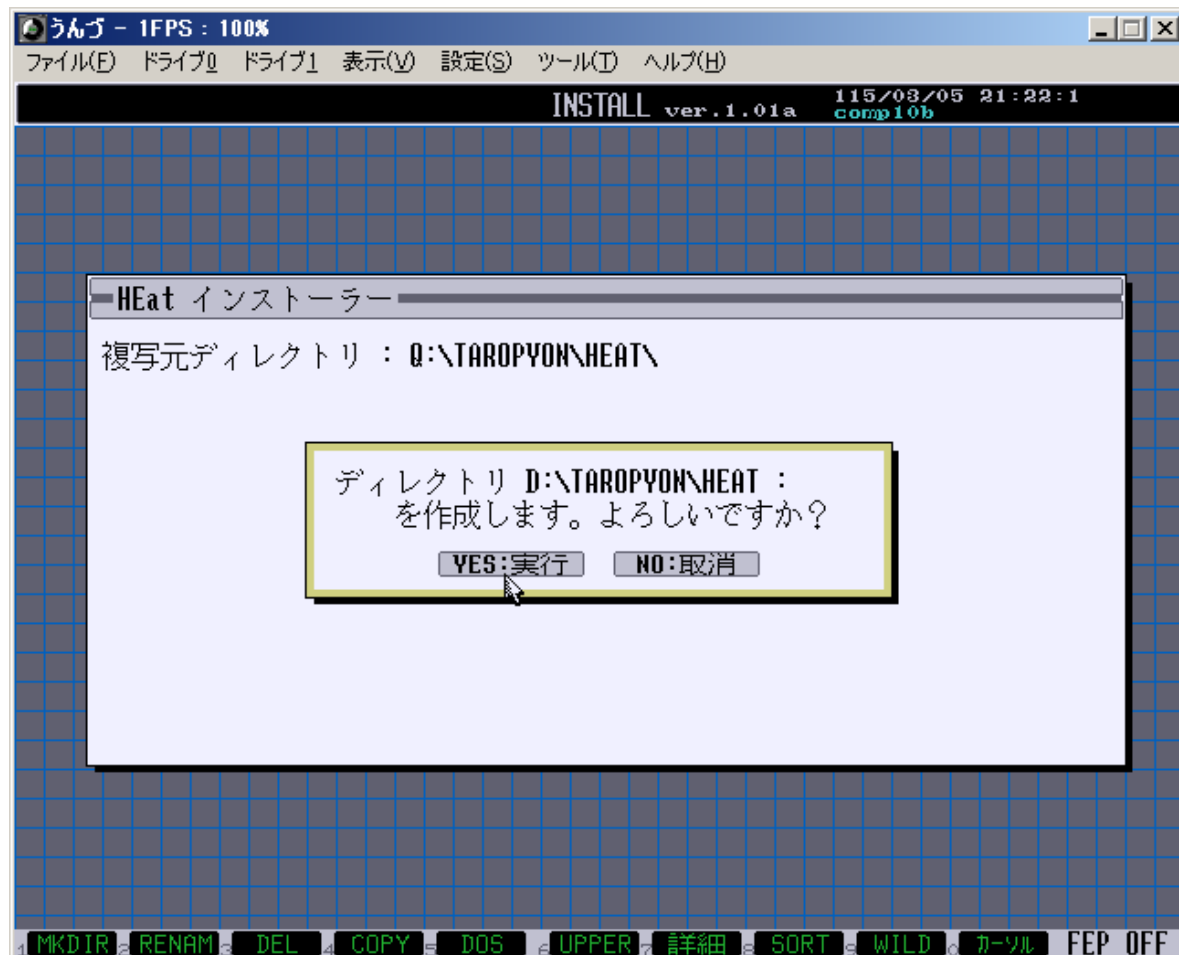
BGM つきで専用インストーラが開くので、Yes 実行を選ぶ



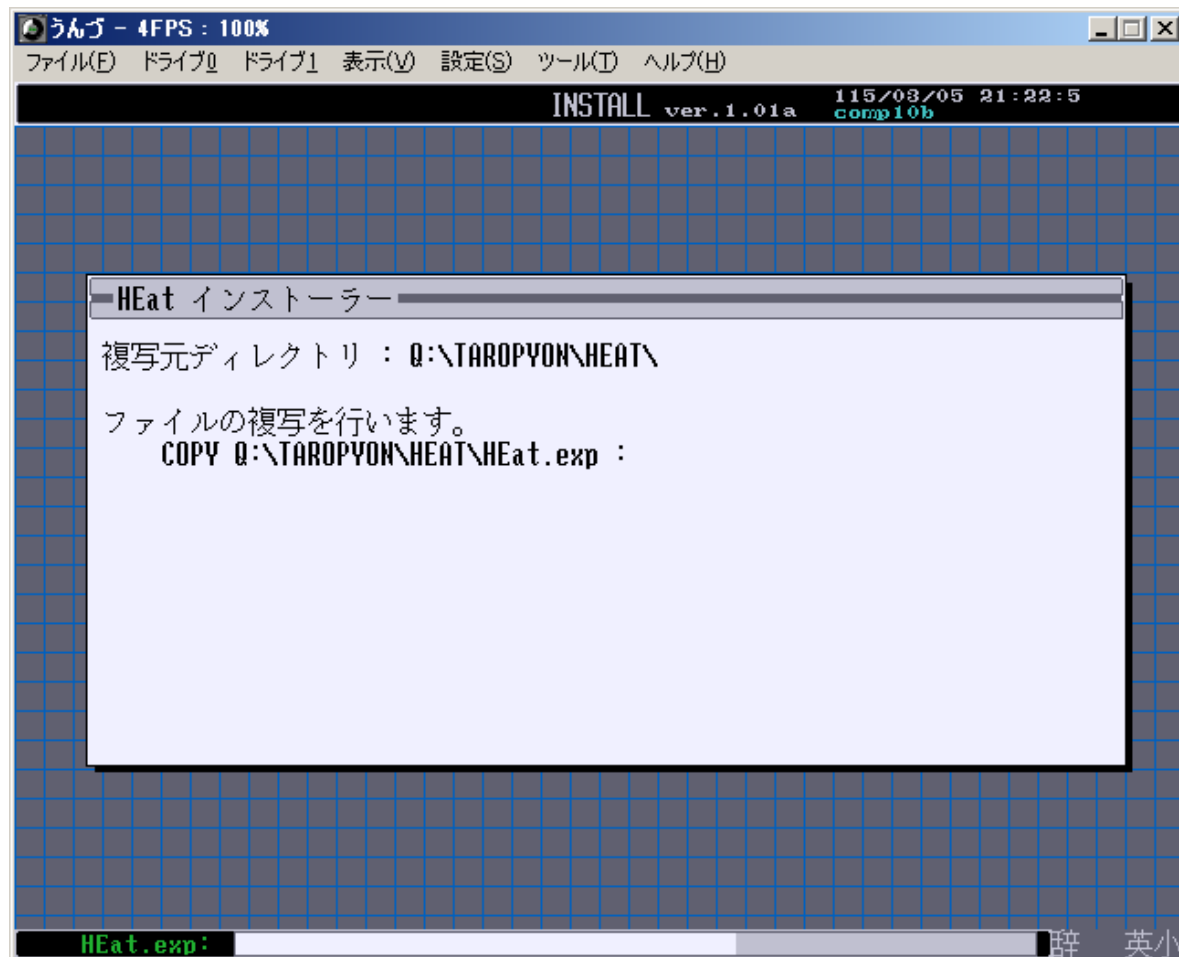
適当なフォルダを作成して、そこに入れる。



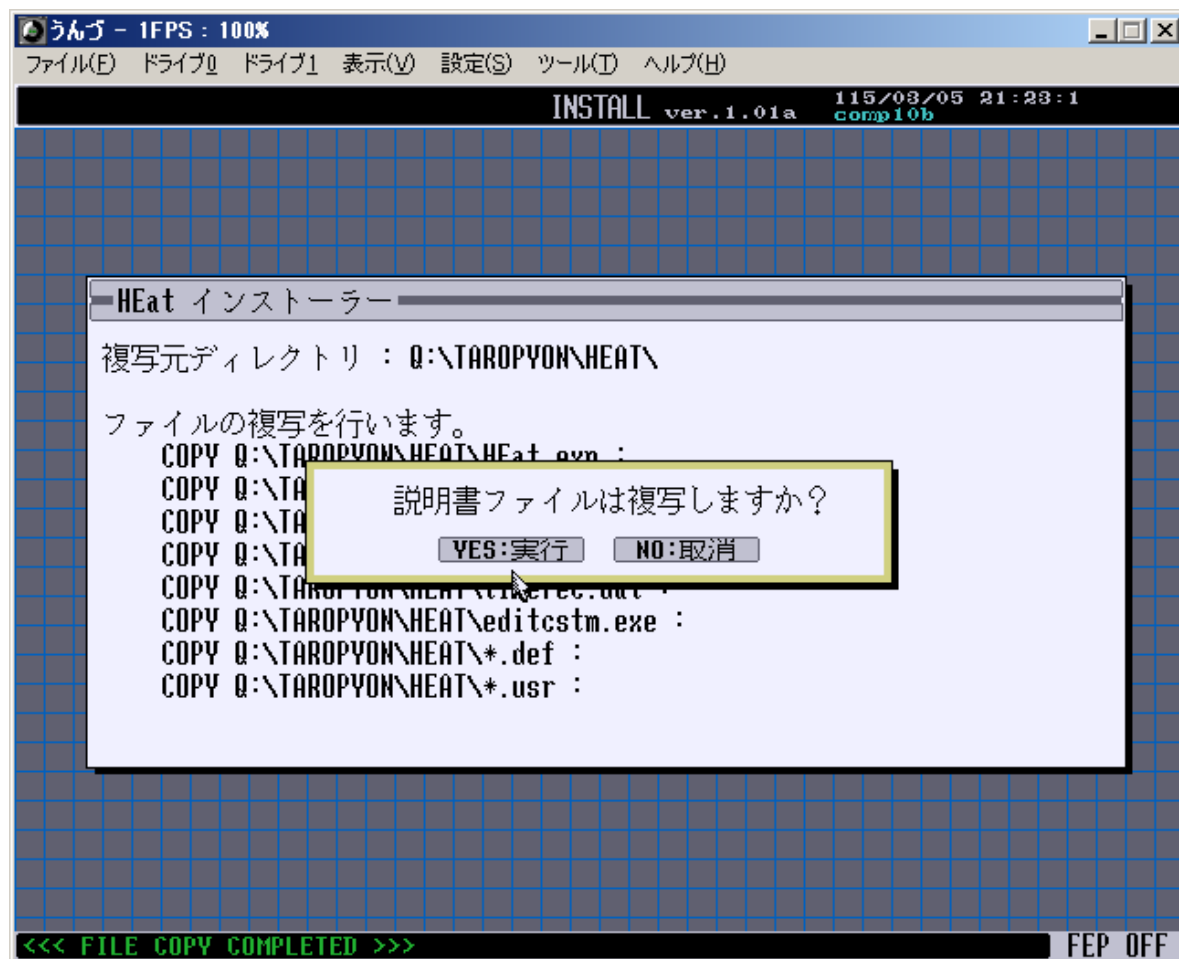
ディレクトリを作成するか聞いてくるので Yes をクリック



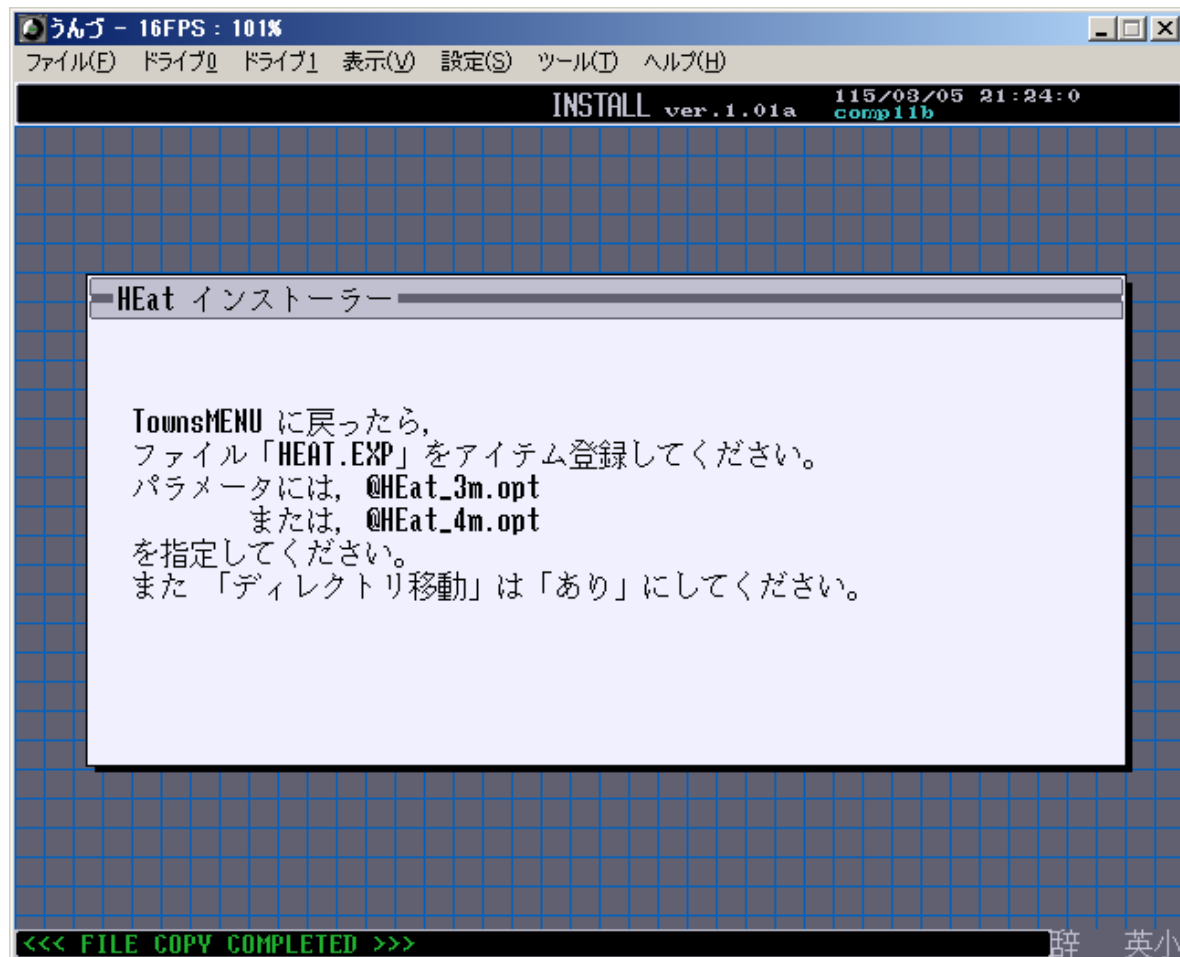
インストールが実行される



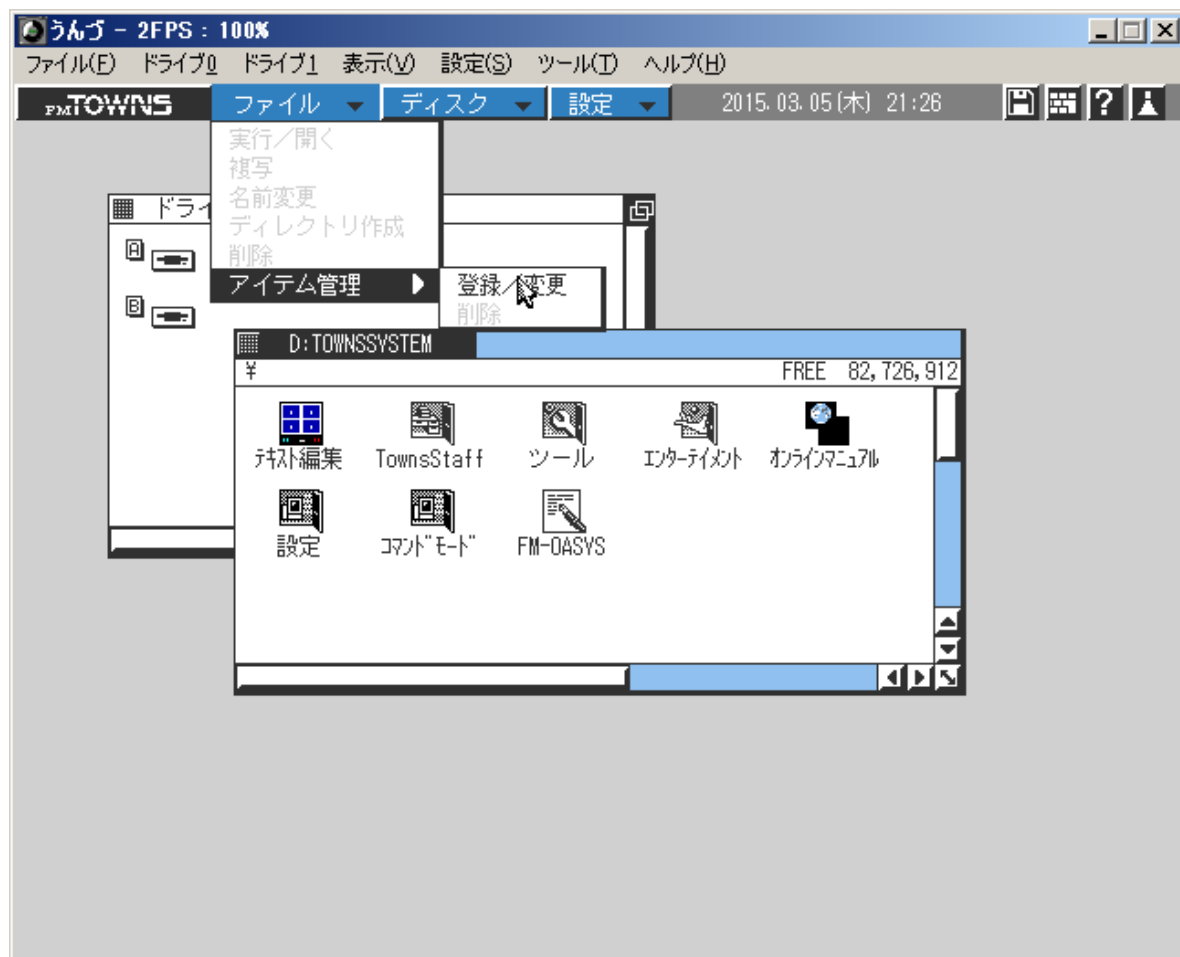
ドキュメントも必要と思う (MML 構文とか)



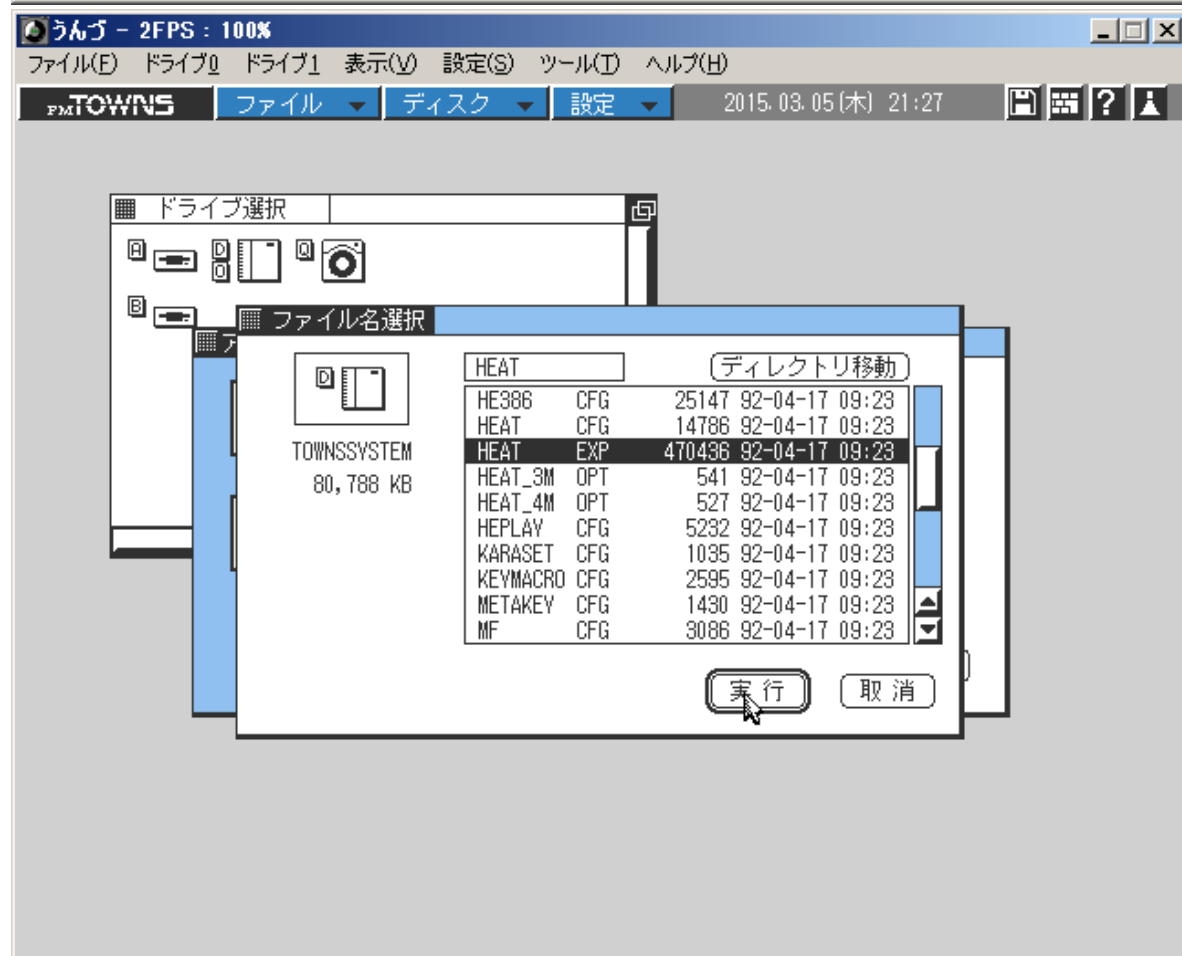
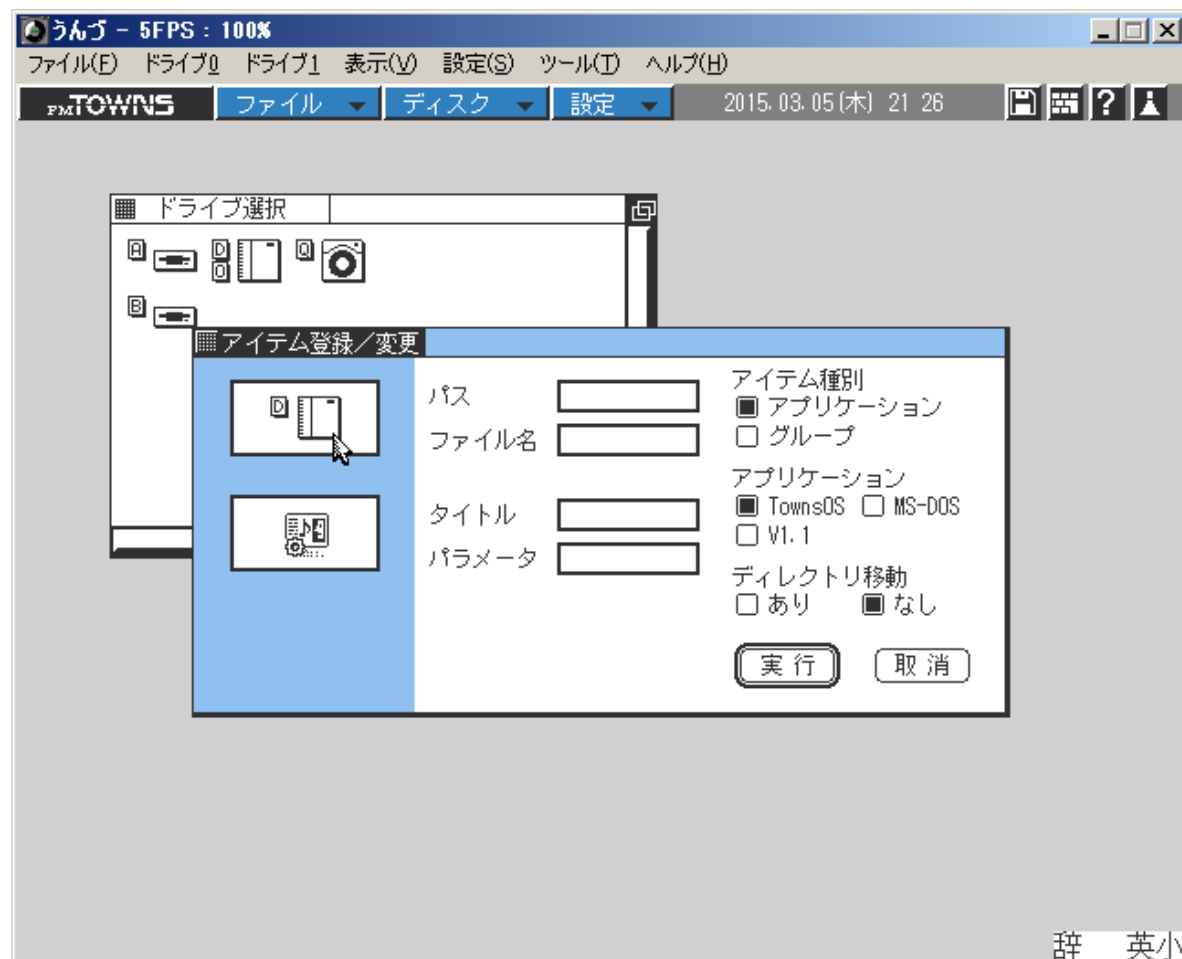
指示に従ってアイテム登録を行う



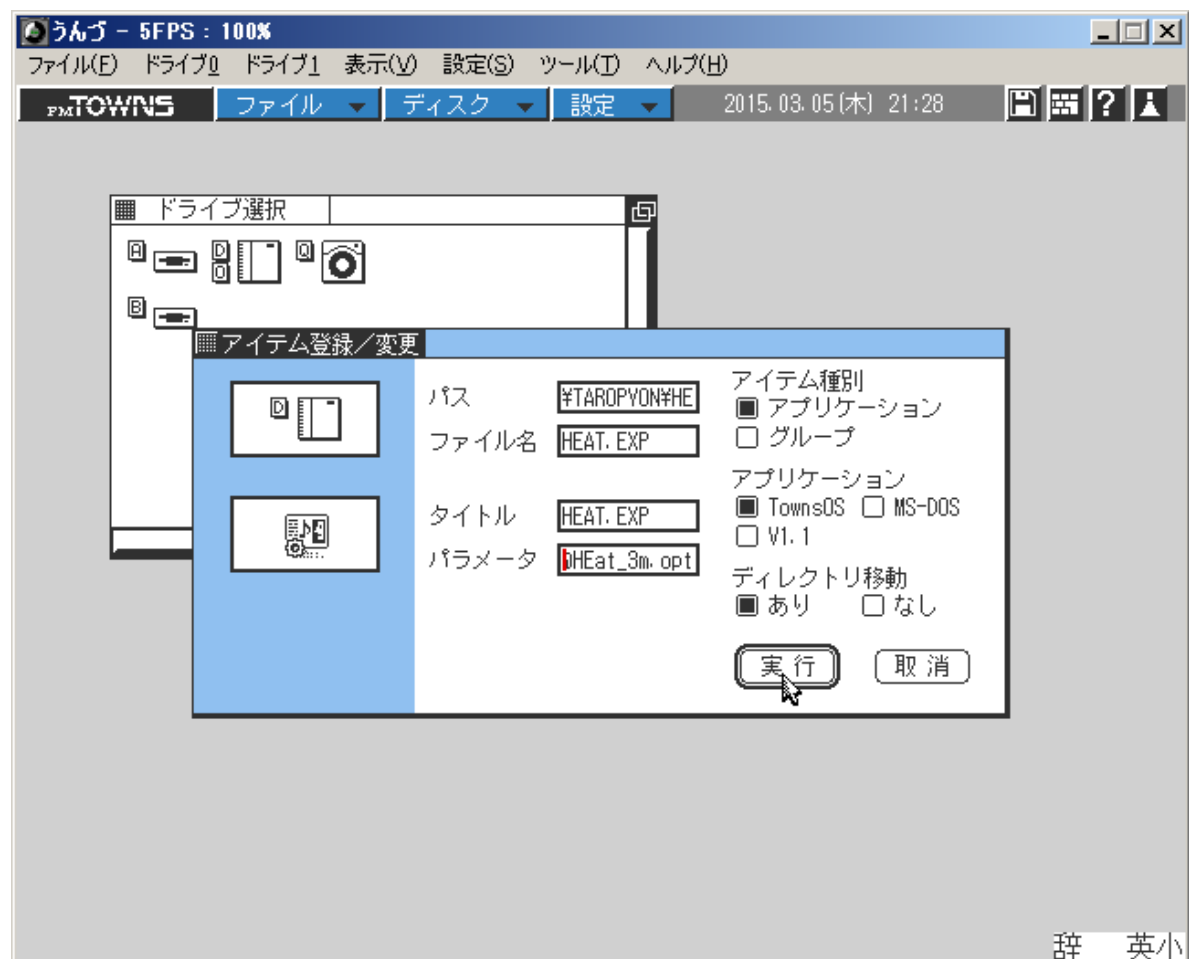
ファイル→アイテム管理→登録／変更をクリック



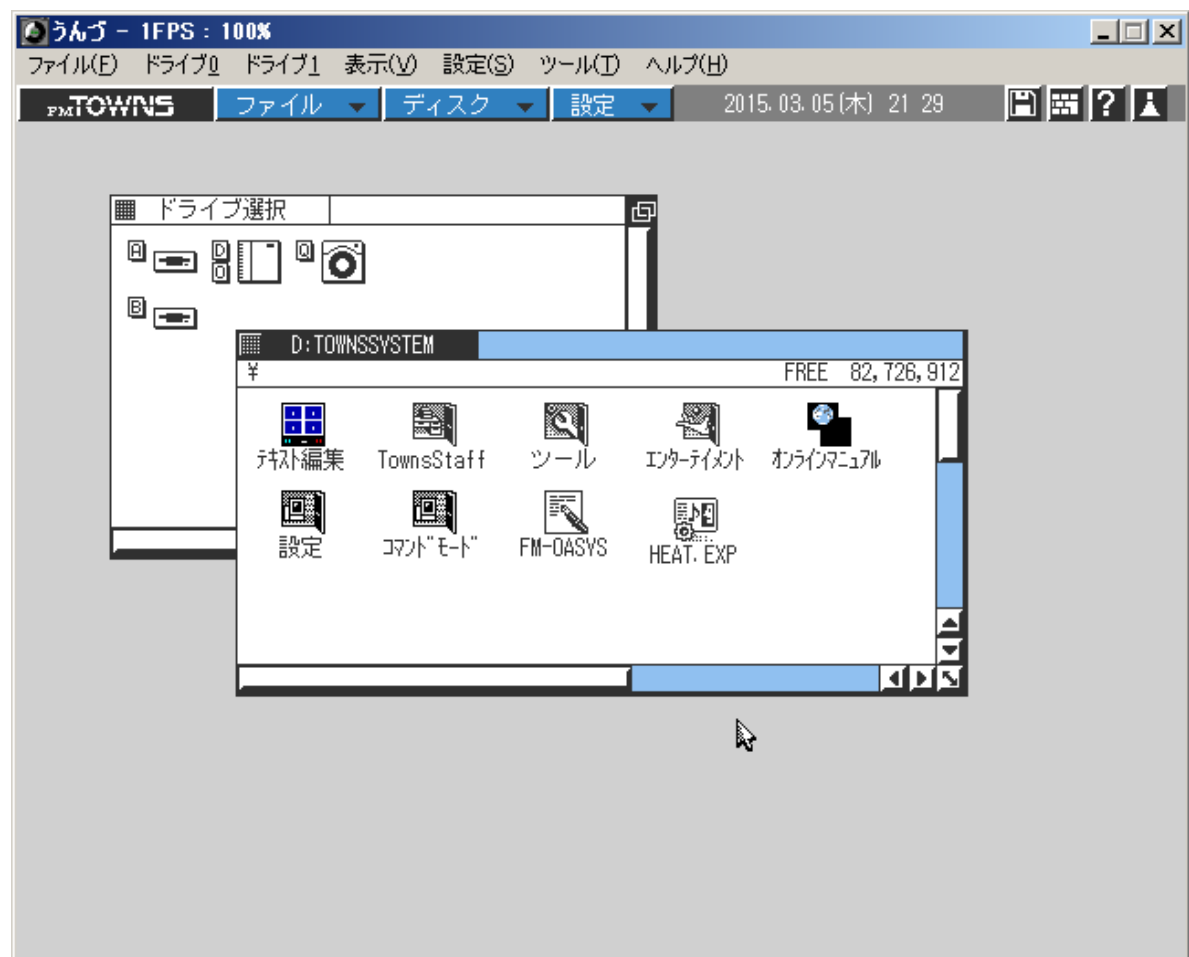
HDD アイコンを押して、インストールした HEAT.EXP を選択



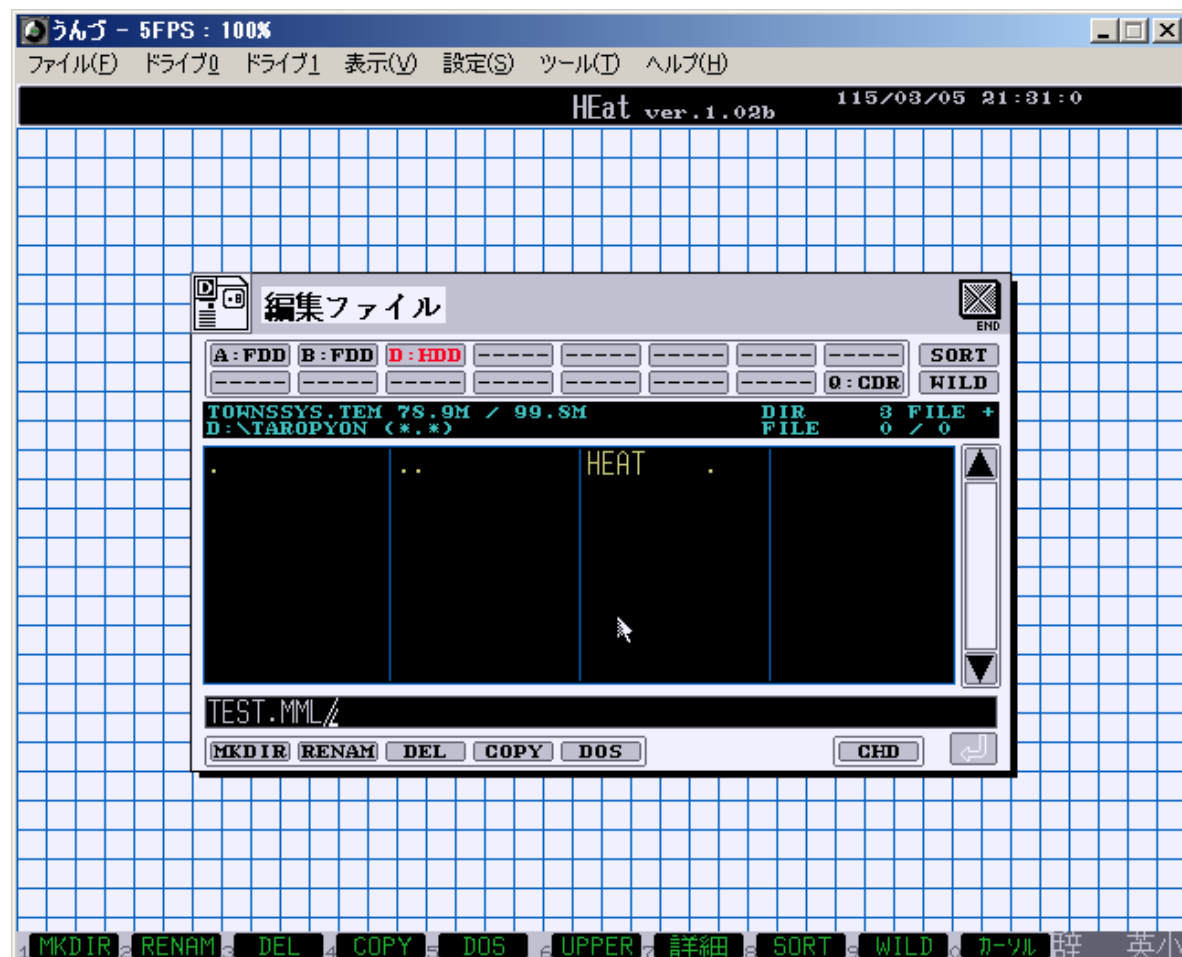
オプションを設定、ディレクトリ移動「あり」を選択して実行をクリック



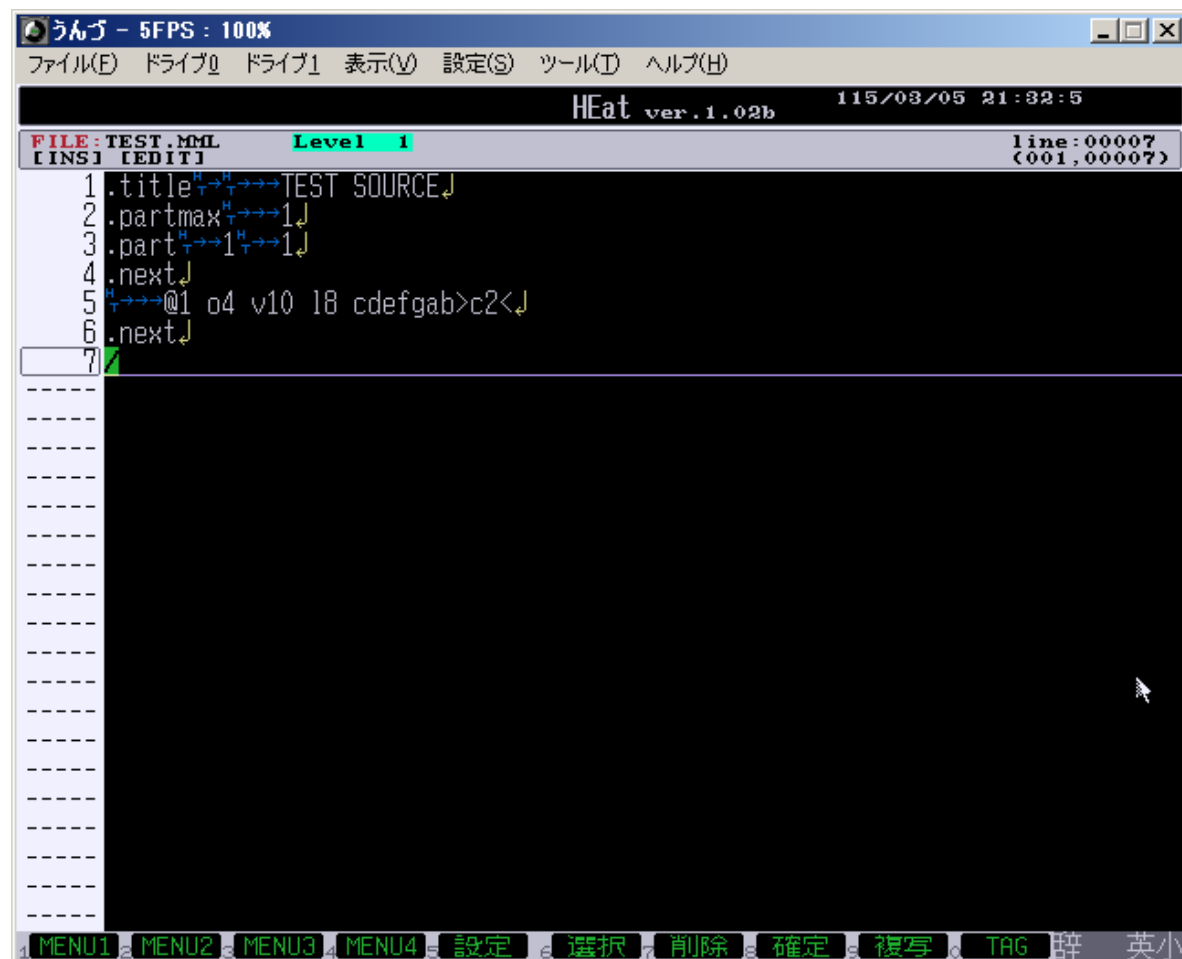
HEat アイテムが登録される



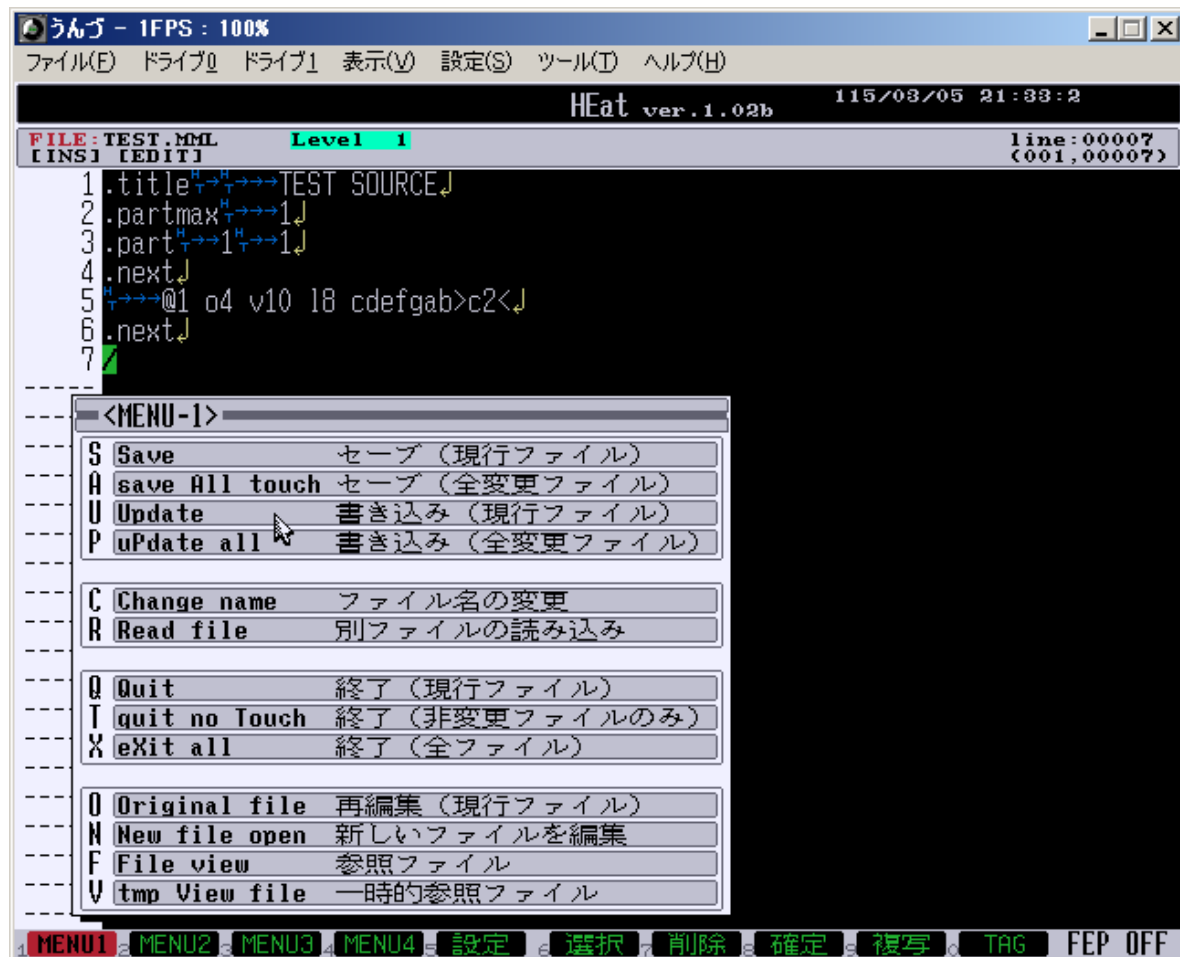
Heat を起動し、編集ファイルを設定



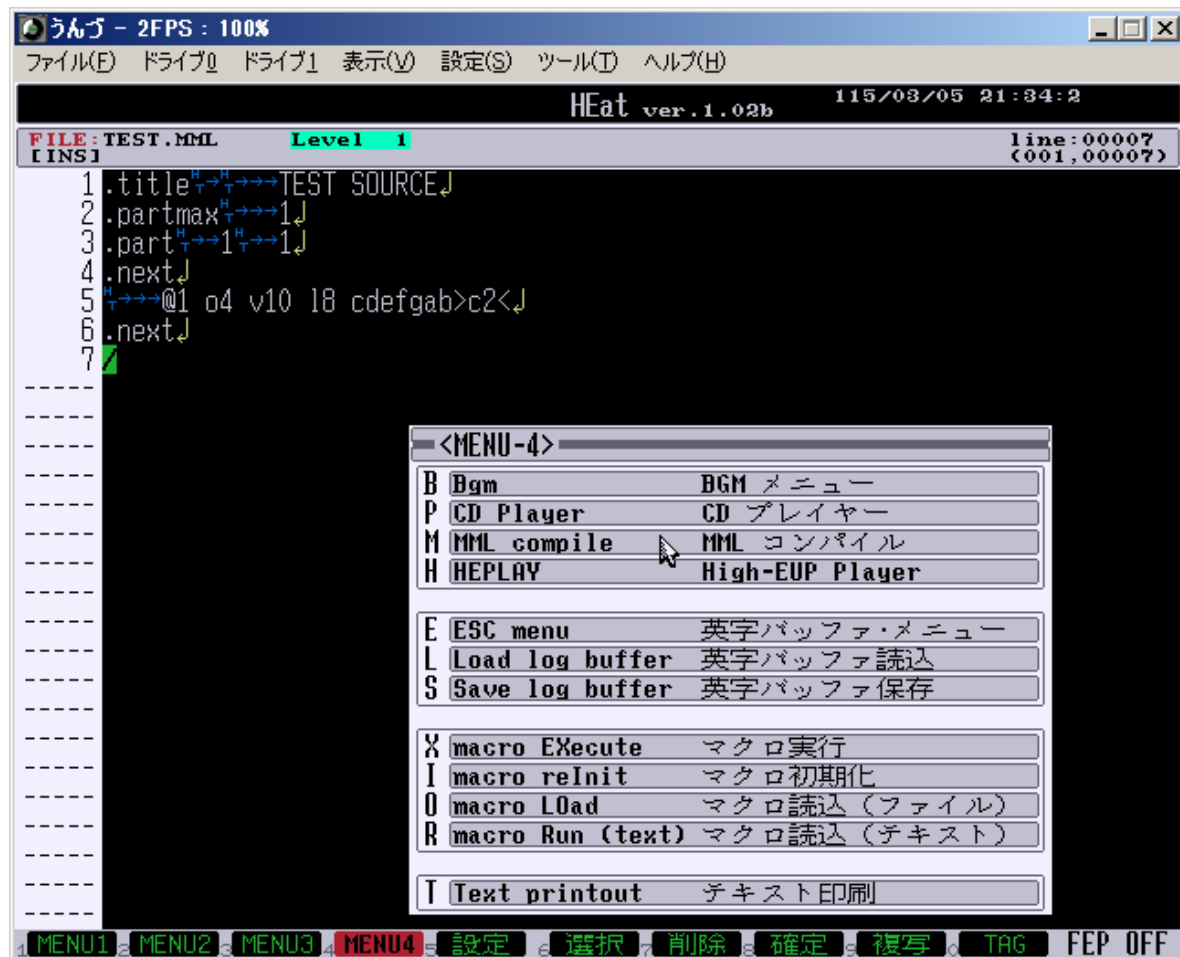
ソース記載



MENU1 → Update を選択して記述ソースを保存

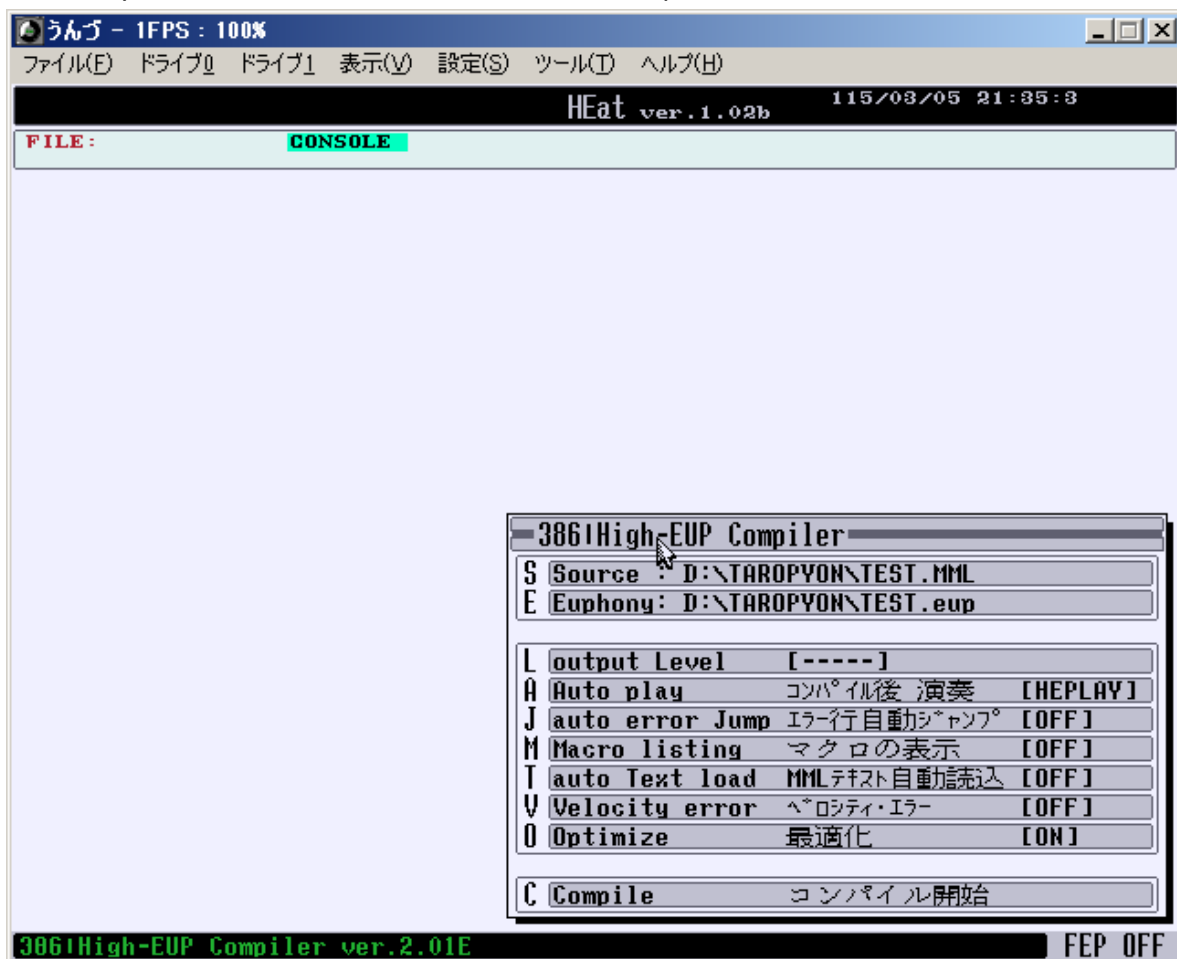


MENU4 → MML コンパイル を選択

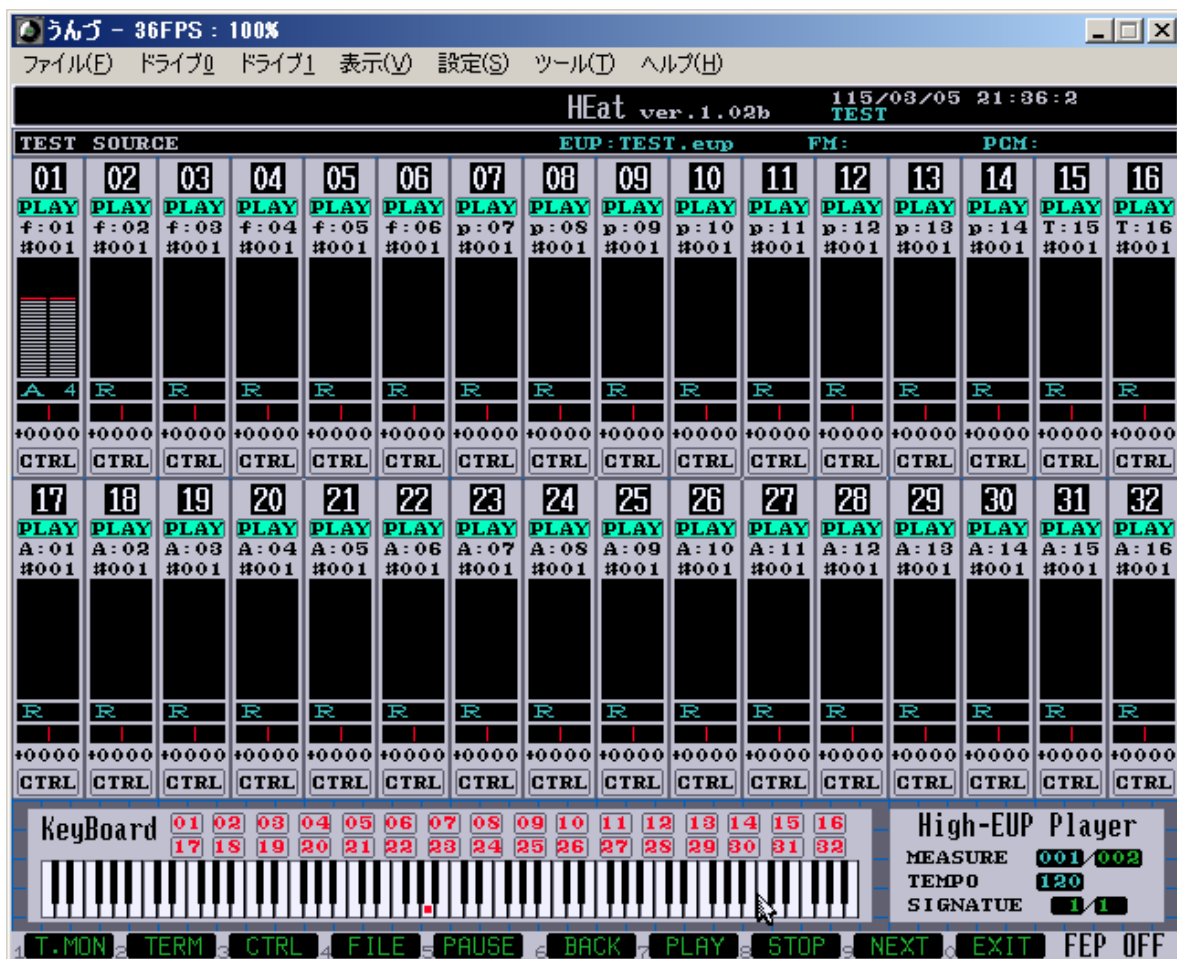




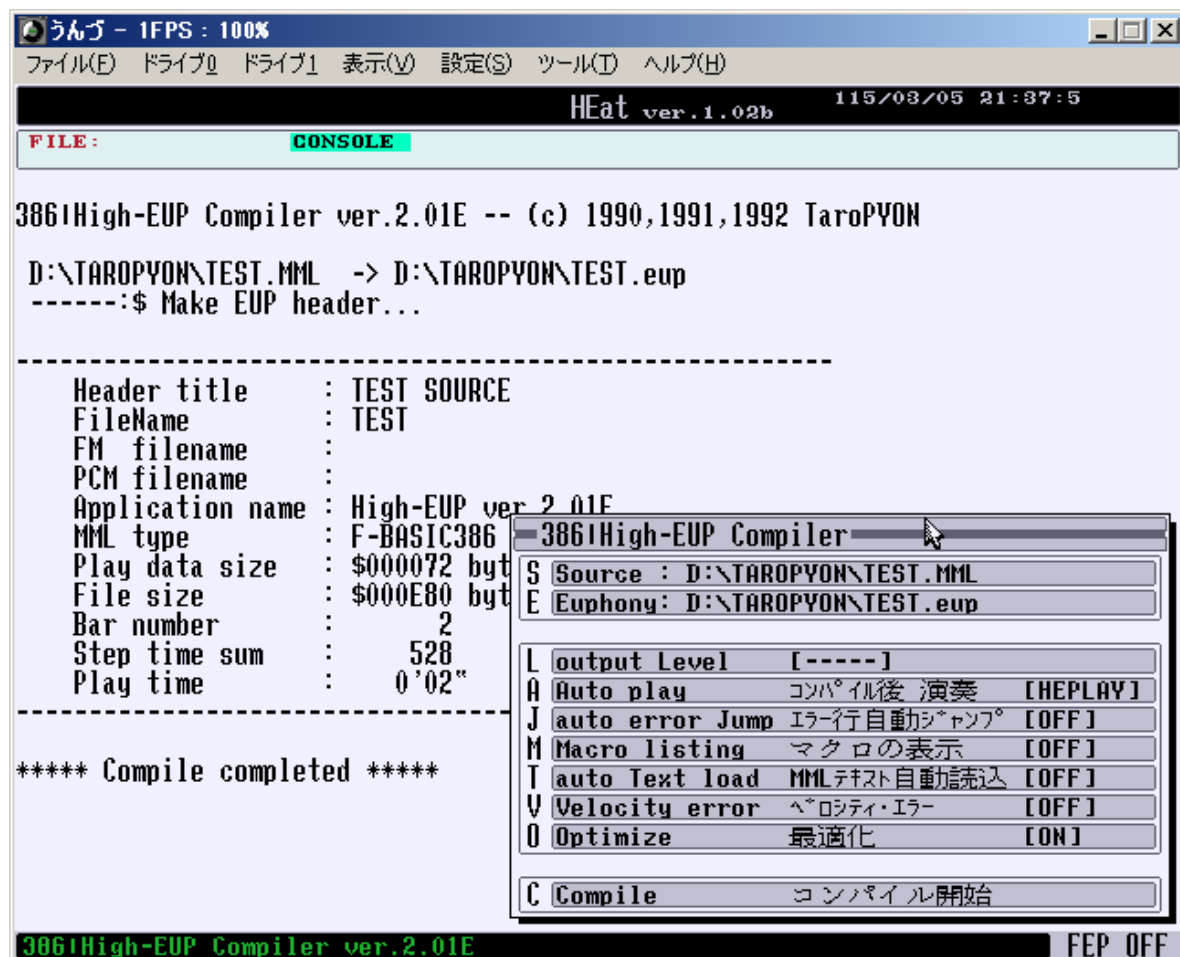
Auto Play の設定を「BGM」または「HEPLAY」にして compile をクリック



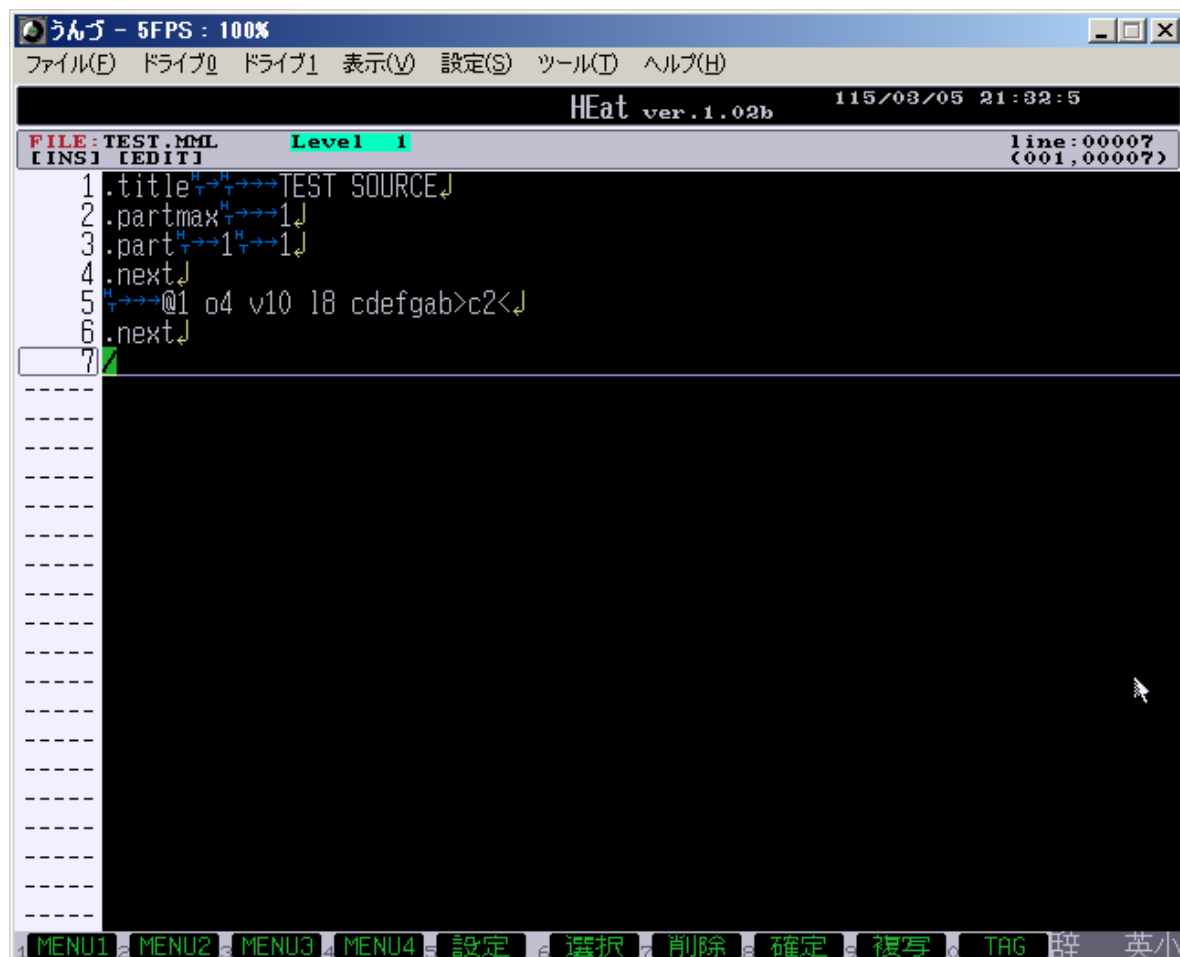
コンパイルが正常に行われ、EUP ファイルが生成された場合演奏が行われる



EXIT を選択するか ESC キーを押すとコンパイル画面に戻る



ここで ESC を押すか右クリックするとテキスト編集画面に戻る



HEat 終了は、MENU1→exit all を選べば終了する

TOWNS OS (HDD イメージ) と Windows 間で、ファイルのやりとりをスムーズに行いたい！という場合は以下のツールで HDD イメージを直接書き換えればよし

うんづ公式のダウンロードページにある「ツールアーカイブ」をダウンロードする。

■うんづ

- V0.5 L30 [Download](#)
- V0.5 L20 [Download](#)
- V0.5 L10a [Download](#)
- V0.5 L10 [Download](#)
- V0.4 L20 [Download](#)
- V0.4 L10c [Download](#)
- V0.4 L10b [Download](#)
- V0.4 L10a [Download](#)
- V0.4 L10 [Download](#)

■ツールアーカイブ(2004/1/3更新)

[unztools040103.zip](#)

ディスクイメージの読み書きソフトウェア、DiskExplorer をダウンロードする

DiskExplorer

[English version of this software is here.](#)

概要

ディスクイメージ内のファイルに直接アクセスして読み書きするツールです。フロッピー、PC98E、Anex86、T98、T98-Next、NekoProjectII、Virtual98、98/V、VMware 環境で役立てください。

FAT12またはFAT16フォーマットの無圧縮論理ディスクイメージに対応しています。F、す。98版DOSのハードディスクと、AT版DOSのハードディスクの領域情報を認識すること、Human68kでフォーマットされたSASIハードディスクイメージに対応しています。設定、表1は対応早見表です。対サーチエンジン得点稼ぎ?いやそんな事は…。「一般デ、どのヘッダなし無圧縮のディスクイメージが該当します。

物理的なハードディスクをイメージ変換するには下で紹介しているGetDriveを使って、Windows2000やWindowsNTでは、物理ドライブに直接DiskExplorerでアクセスすること、用に制限されますが、98やx68000のハードディスクから手っ取り早くファイルを持って来

ダウンロード

- [editd169.lzh \(270,194 bytes\) Ver1.69](#)
- [editd168.lzh \(270,663 bytes\) Ver1.68](#)

ツールアーカイブにある fmimg2 に入っている fmimg2.dll と fmimg2.ini を DiskExplorer のフォルダにコピーする

editd169

editd169

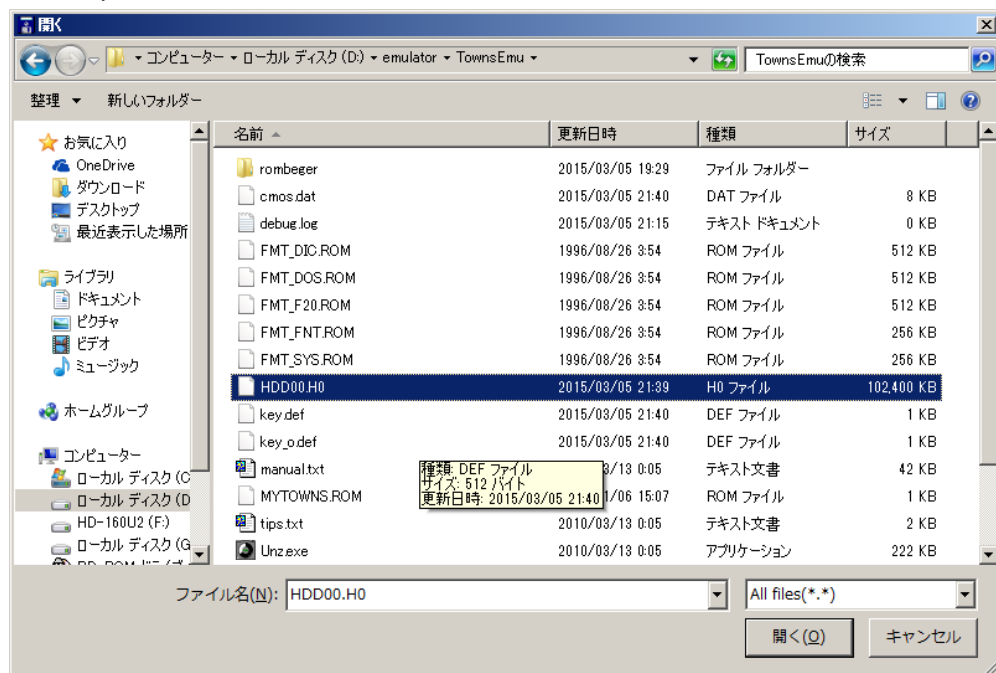
editd169の検索

整理 プログラムから開く... 共有 書き込む 新しいフォルダー

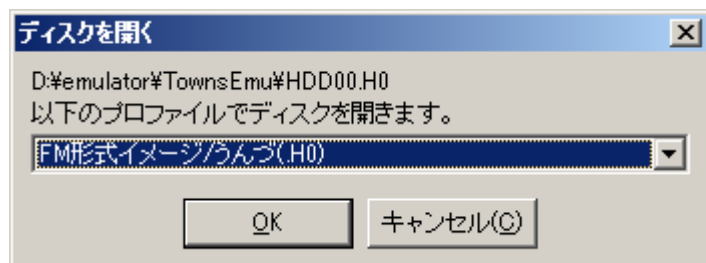
名前	更新日時	種類	サイズ
editdisk.cnt	2010/01/09 0:48	CNT ファイル	
editdisk.exe	2010/01/09 0:20	アプリケーション	54...
editdisk.hlp	2010/01/09 0:48	ヘルプ ファイル	5...
editdisk.ini	2015/03/05 14:24	構成設定	
fmimg2.dll	2002/12/19 2:40	アプリケーション拡張	6...
fmimg2.ini	2002/12/02 19:13	構成設定	
readme.txt	2010/01/09 0:34	テキスト文書	
types.ini	2001/12/28 14:43	構成設定	...

2 個の項目を選択 更新日時: 2002/12/02 19:13 - 2002/12/19 2:40  
サイズ: 64.4 KB

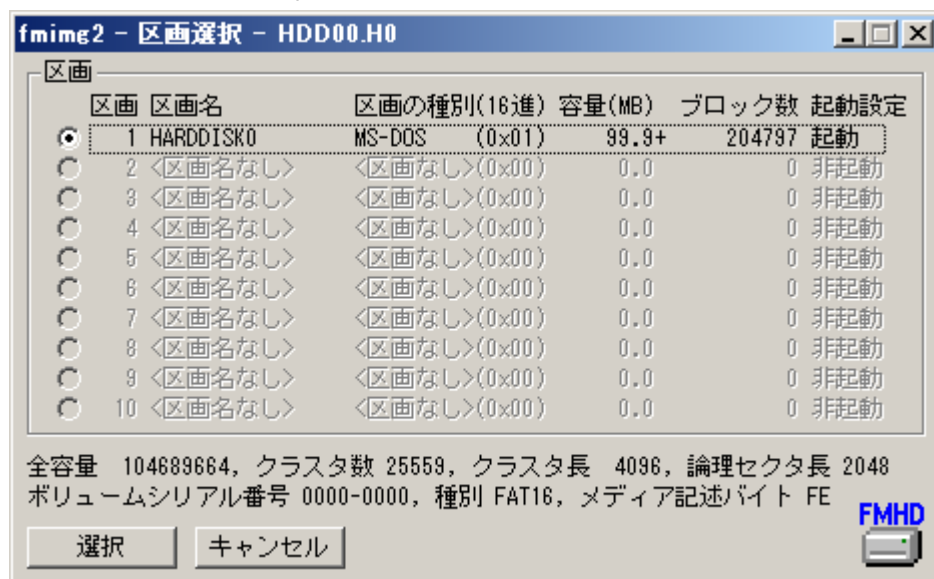
DiskExplorer を起動し、うんづのハードディスクイメージを読み込む



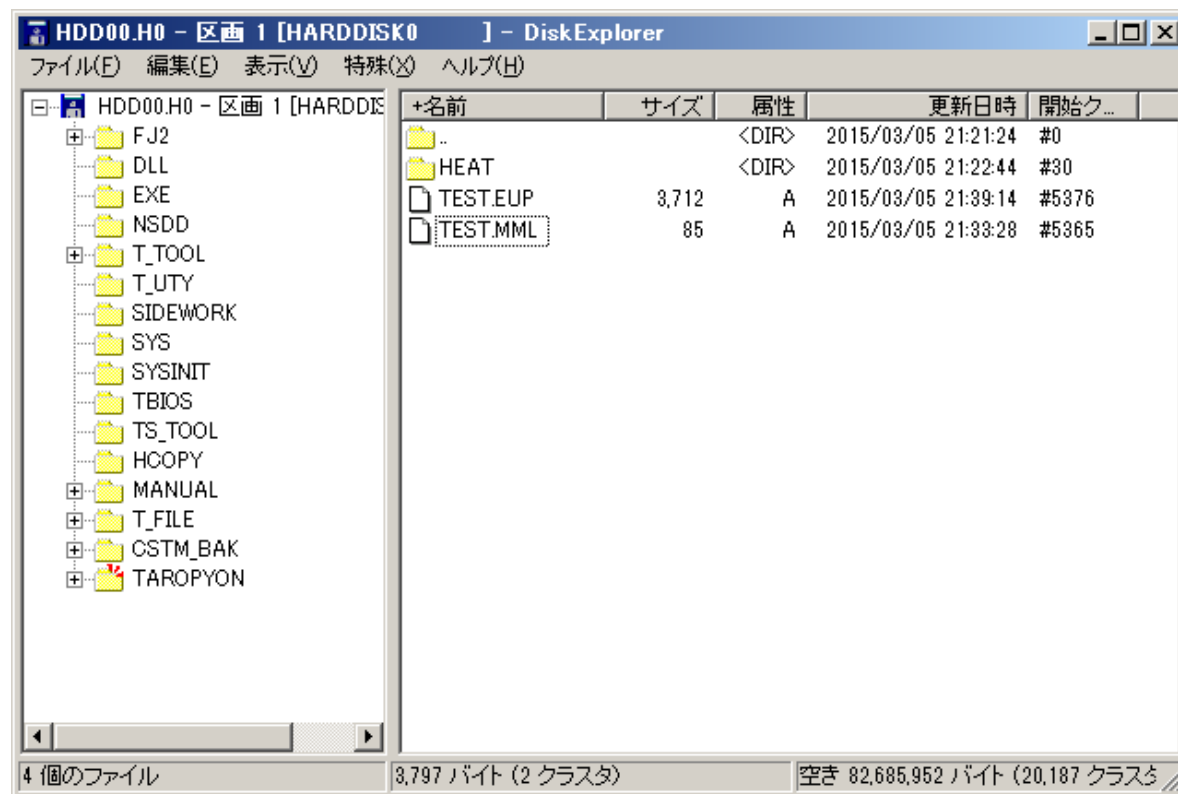
自動的にフォーマット認識されるので、開く。



ディスクイメージの区画情報が出るので、参照する区画を選択する



これにより、Windows / TOWNS OS 間でファイルのやりとりが可能



ただし、うんづが起動してる間に DiskExplorer でファイル操作するのは厳禁。(FAT 情報が崩壊する場合がある)